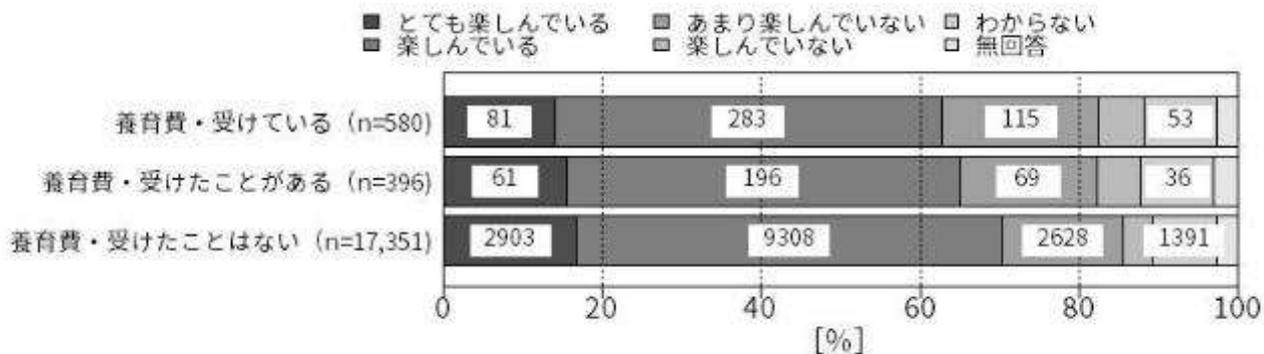


養育費の受給別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

（保護者票 問 30(3)⑨ × 保護者票 問 25(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

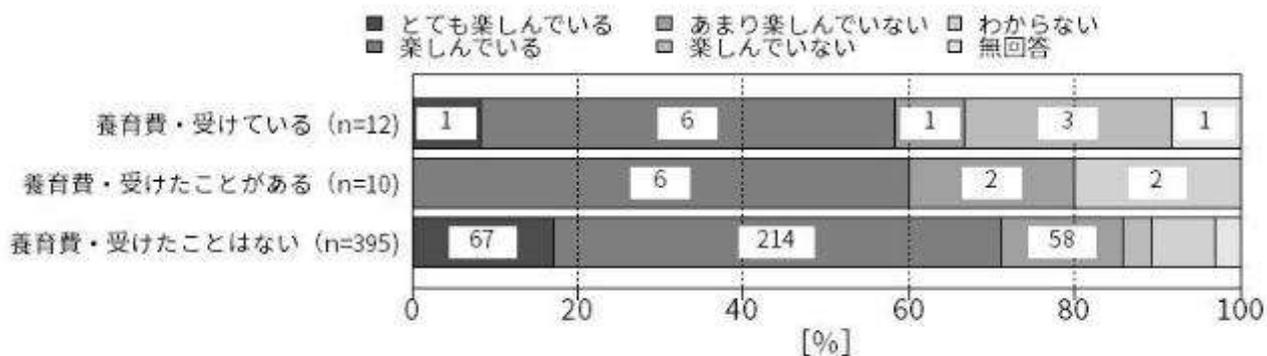


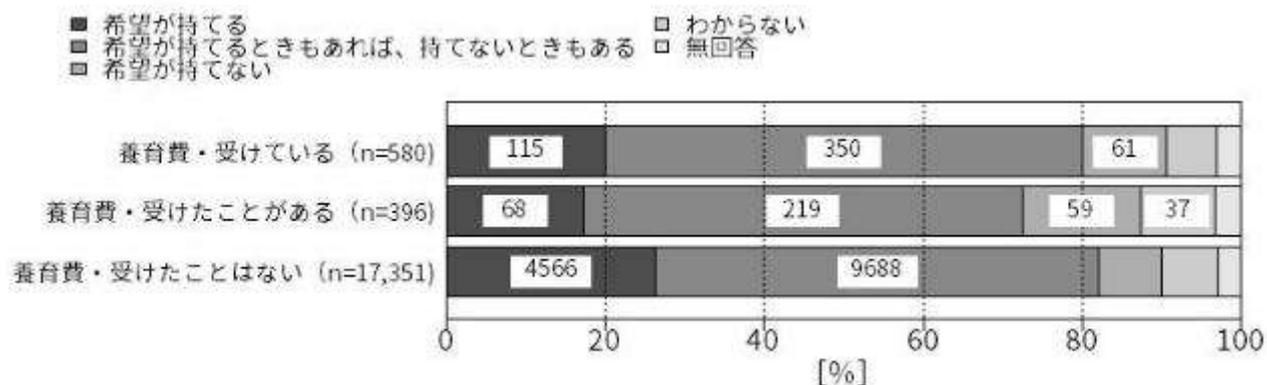
図 156. 養育費の受給別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

養育費を受けている世帯、養育費を受けたことがある世帯ともに少数であったため傾向を述べることはできない。養育費を受けている世帯では、「楽しんでいる」が 25.0%であったのに対し、養育費を受けたことがある世帯では該当なし、養育費を受けたことはない世帯では 3.5%であった。

養育費の受給別に見た、心の状態（将来への希望）

（保護者票 問 30(3)⑨ × 保護者票 問 25(2)）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

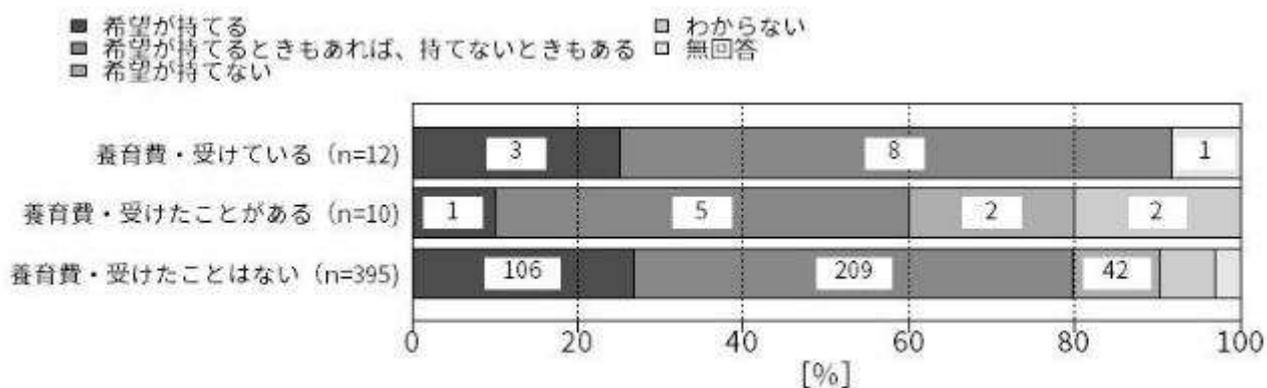


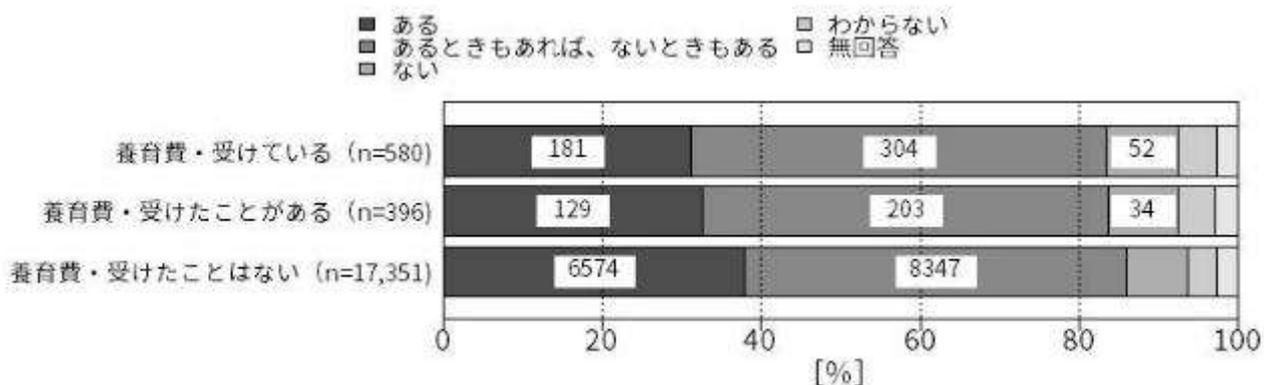
図 157. 養育費の受給別に見た、心の状態（将来への希望）

養育費を受けている世帯、養育費を受けたことがある世帯ともに少数であったため傾向を述べることはできない。養育費を受けている世帯では、「希望が持てない」が該当なしであるのに対し、養育費を受けたことがある世帯では 20.0%、養育費を受けたことはない世帯では 10.6%であった。

養育費の受給別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）

（保護者票 問 30(3)⑨ × 保護者票 問 25(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

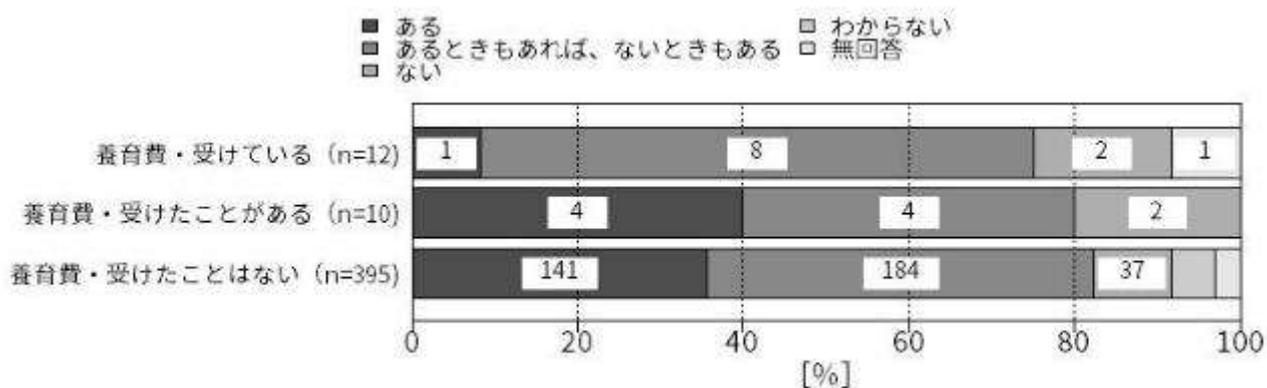


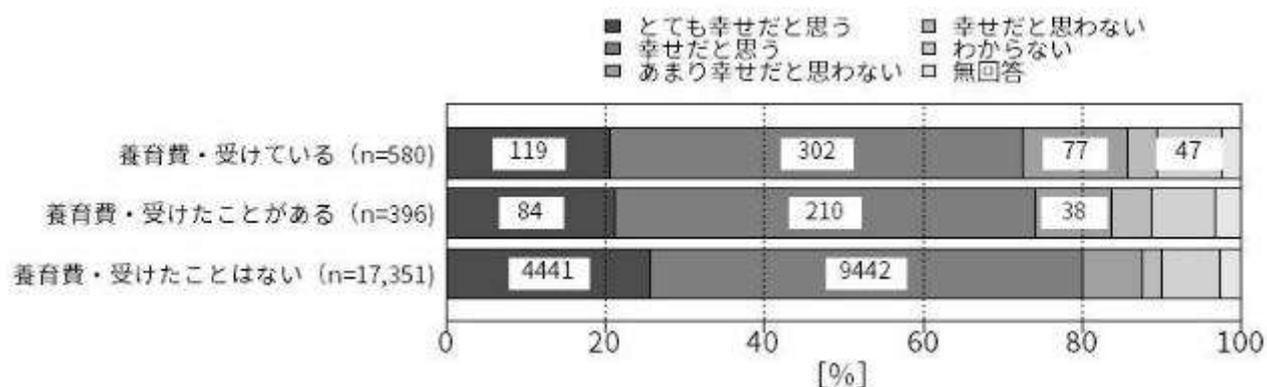
図 158. 養育費の受給別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）

養育費を受けている世帯、養育費を受けたことがある世帯ともに少数であったため傾向を述べることはできない。養育費を受けている世帯では、「ない」が 16.7%であったのに対し、養育費を受けたことがある世帯では 20.0%、養育費を受けたことはない世帯では 9.4%であった。

養育費の受給別に見た、心の状態（幸せだと思うか）

（保護者票 問 30(3)⑨ × 保護者票 問 25(4)）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

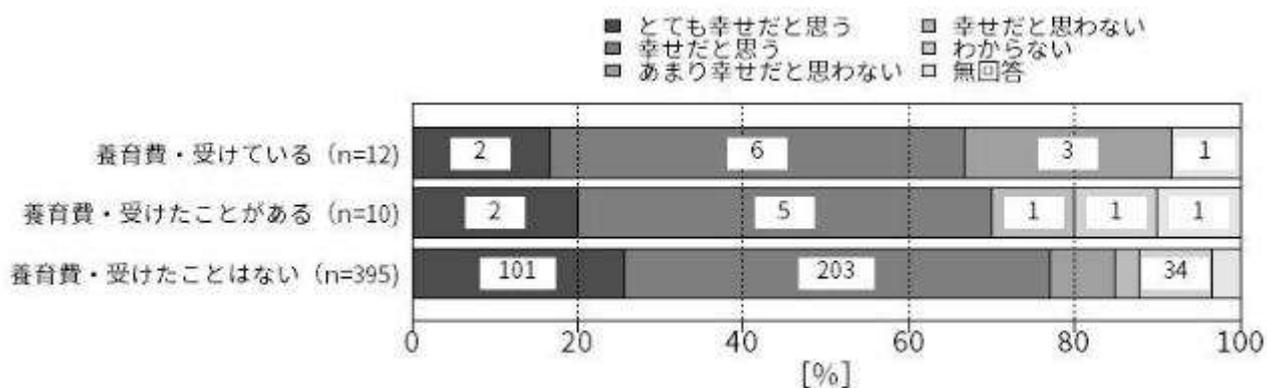


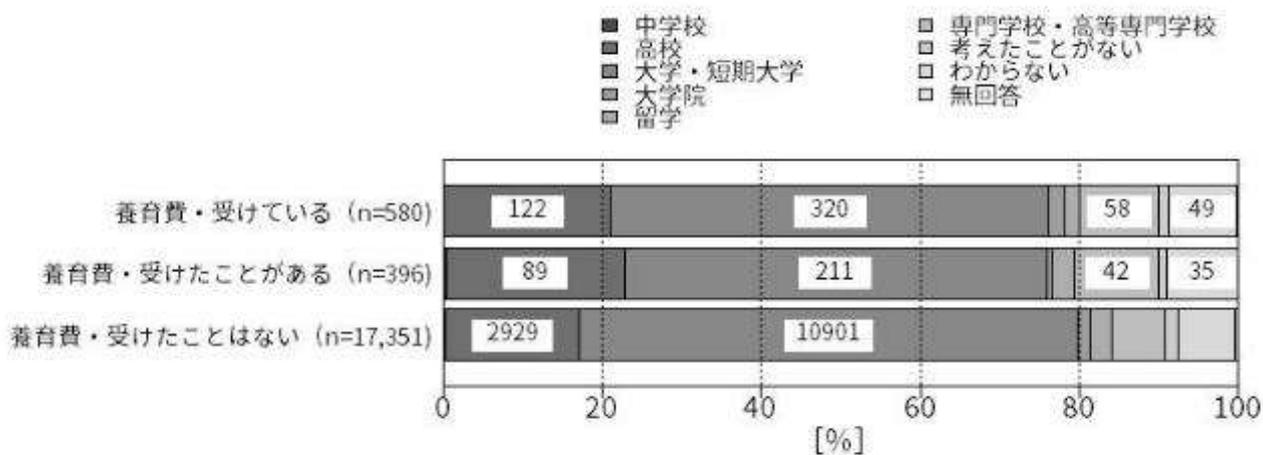
図 159. 養育費の受給別に見た、心の状態（幸せだと思うか）

養育費を受けている世帯、養育費を受けたことがある世帯ともに少数であったため傾向を述べることはできない。養育費を受けている世帯では、「幸せだと思わない」が該当なしであるのに対し、養育費を受けたことがある世帯では 10.0%、養育費を受けたことはない世帯では 3.0%であった。

養育費の受給別に見た、子どもに希望する進学先

(保護者票 問 30(3)⑨ × 保護者票 問 15)

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

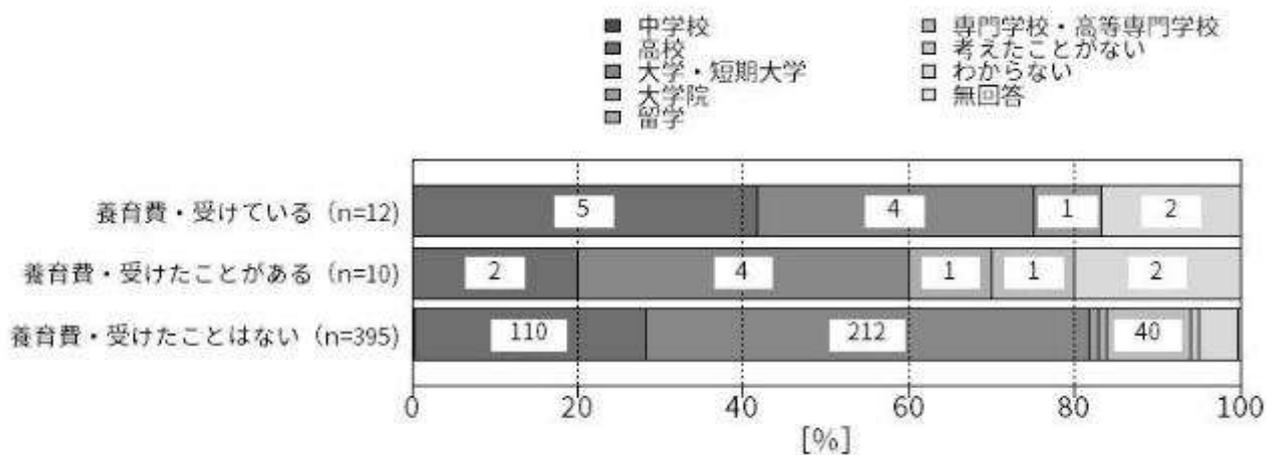
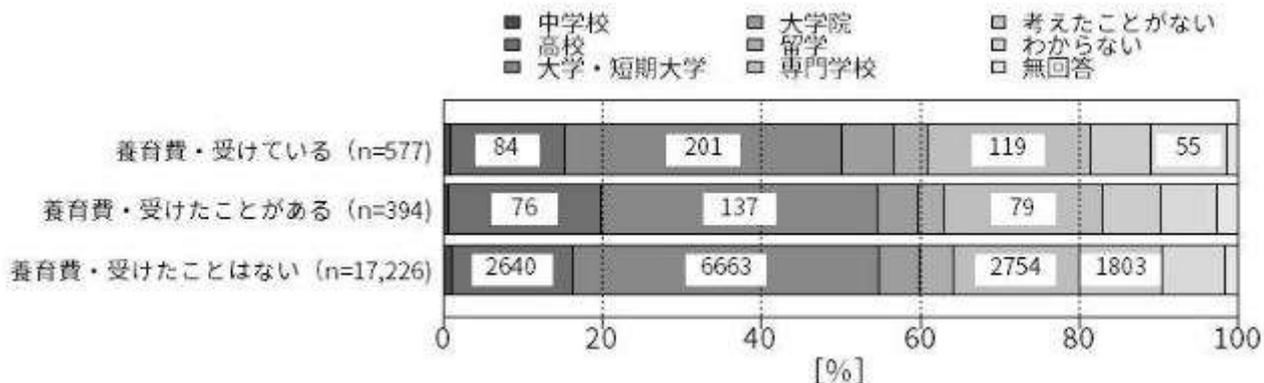


図 160. 養育費の受給別に見た、子どもに希望する進学先

養育費を受けている世帯、養育費を受けたことがある世帯ともに少数であったため傾向を述べることはできない。養育費を受けている世帯では、「大学・短期大学」が 33.3%であったのに対し、養育費を受けたことがある世帯では 40.0%、養育費を受けたことはない世帯では 53.7%であった。

養育費の受給別に見た、希望する進学先（保護者票 問 30(3)⑨ × 子ども票 問 27)

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

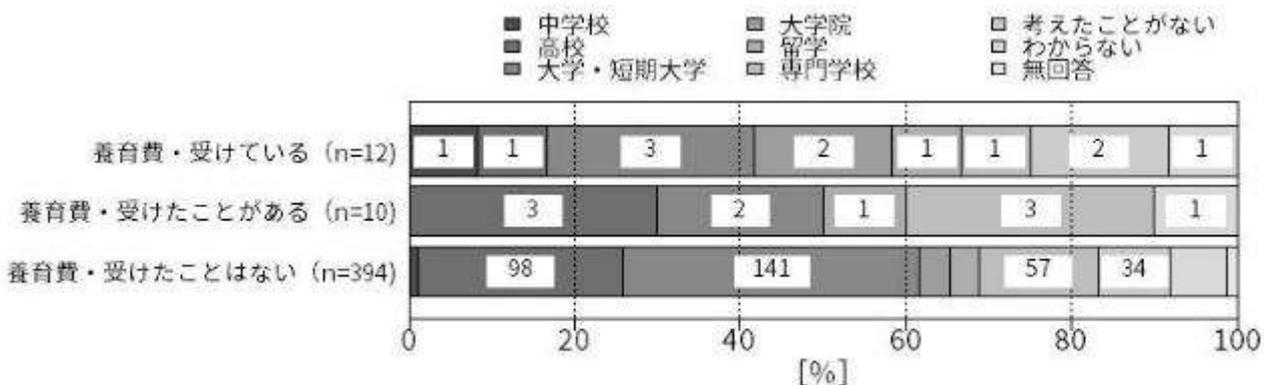
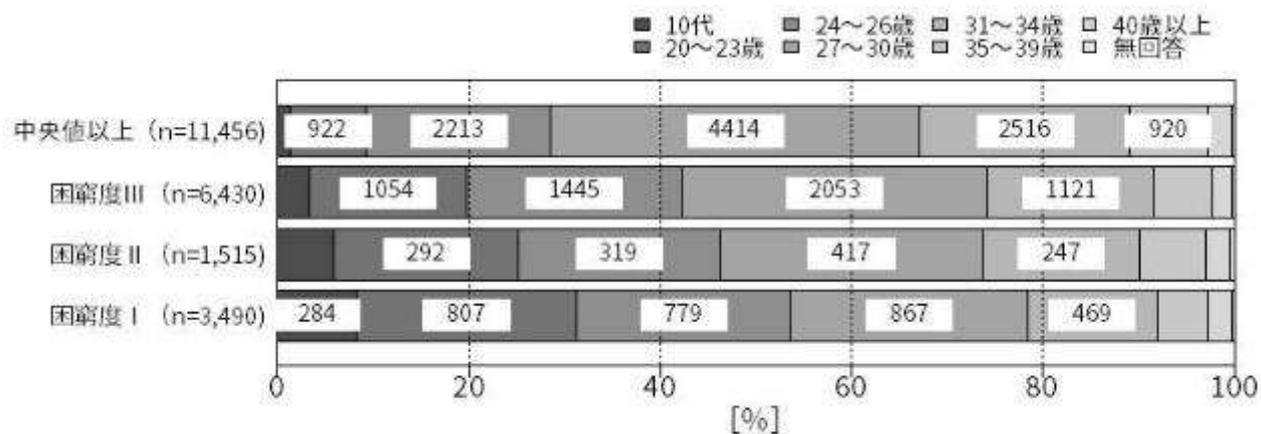


図 161. 養育費の受給別に見た、希望する進学先

養育費を受けている世帯、養育費を受けたことがある世帯ともに少数であったため傾向を述べることはできない。養育費を受けている世帯では、「大学・短期大学」が 25.0%であったのに対し、養育費を受けたことがある世帯では 20.0%、養育費を受けたことはない世帯では 35.8%であった。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票 問 22）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

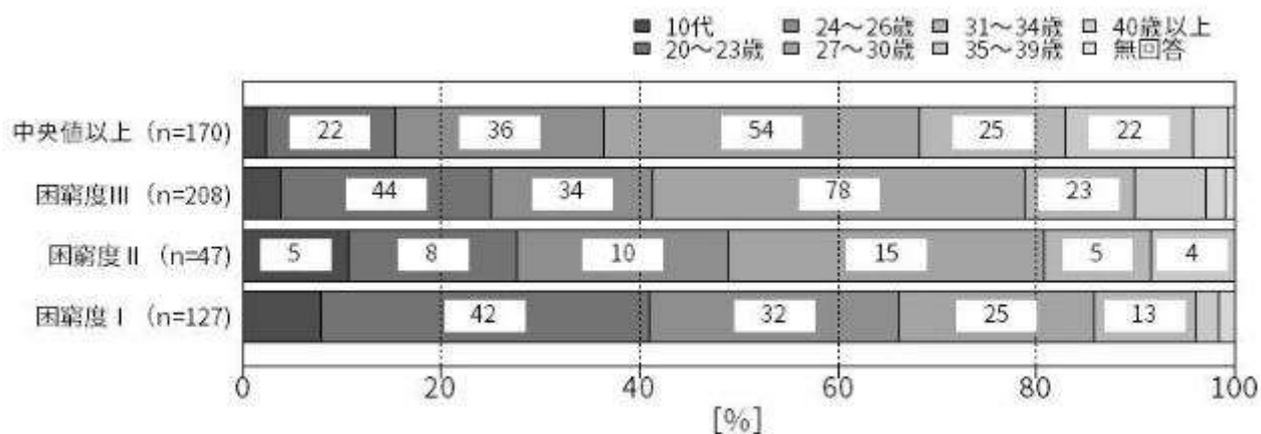


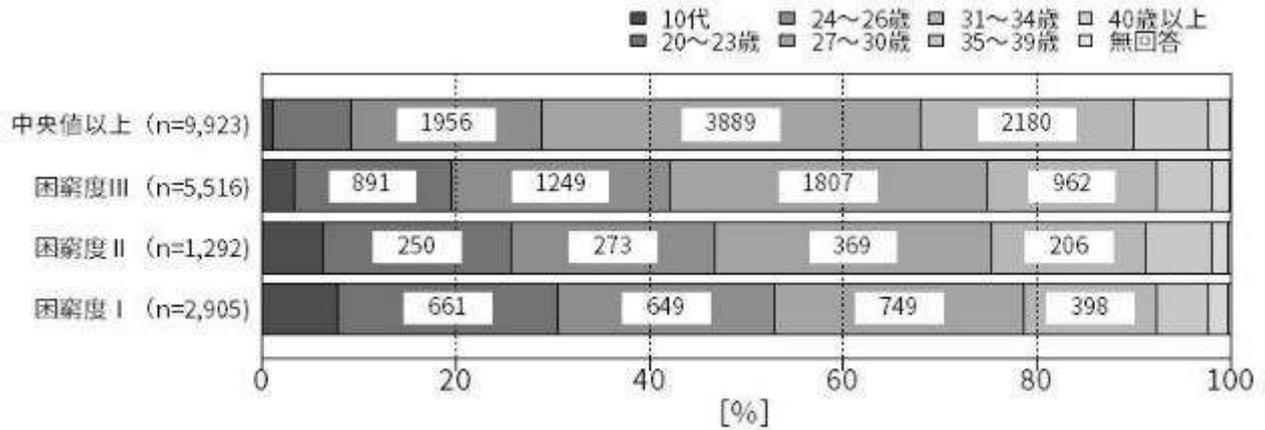
図 162. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢

全ての回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度Ⅰ群で10代で初めて親となったと答えた割合は7.9%であった。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票 問 22）

※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

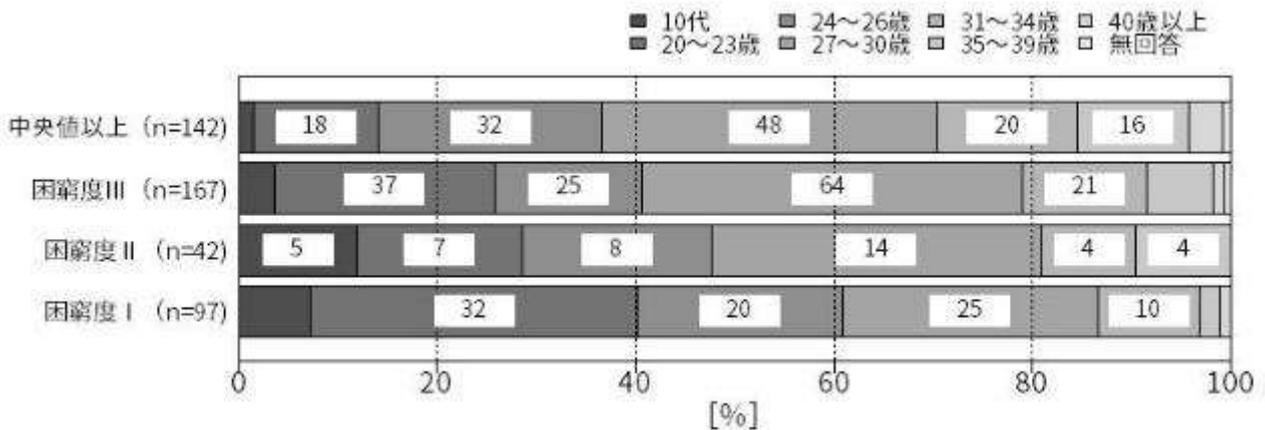


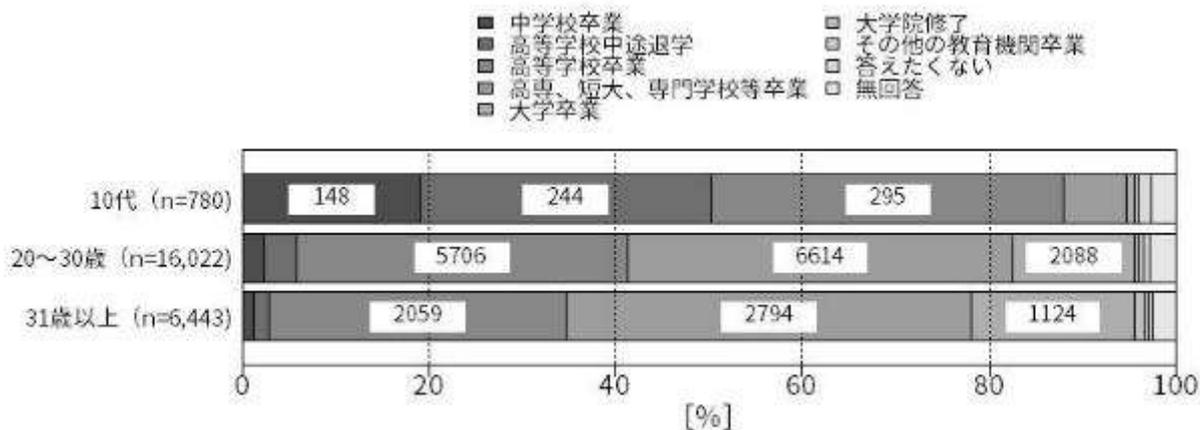
図 163. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢

※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度Ⅰ群で10代で初めて親となったと答えた割合は7.2%であった。若くして母親となった人ほど、経済的な問題を抱えている可能性が考えられる。

初めて親となった年齢別に見た、母親の最終学歴（保護者票 問 22 × 保護者票 問 8）
 ※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

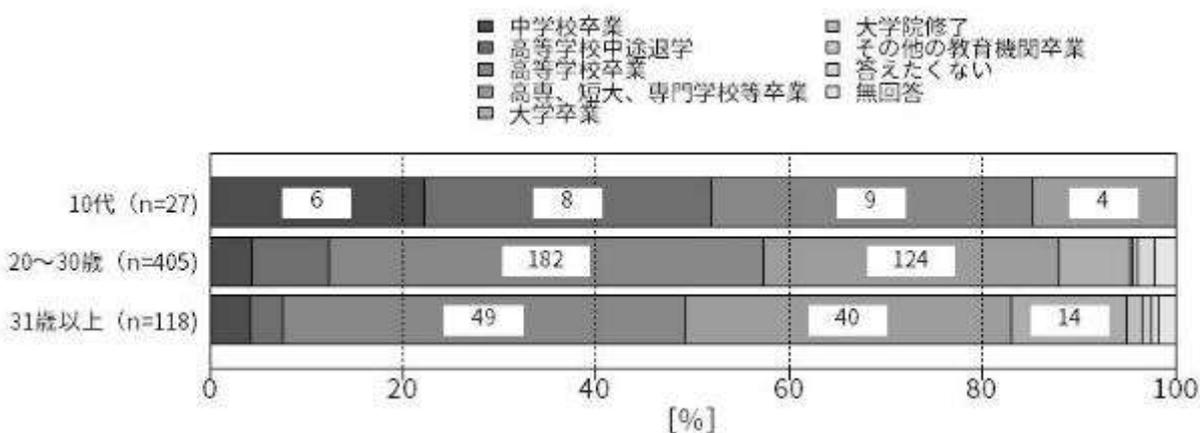


図 164. 初めて親となった年齢別に見た、母親の最終学歴
 ※母親が回答者の場合に限定

「初めて親となった年齢」を基準に、10代で初めて親となった10代群、平均出産年齢以下の年齢ではじめて親となった平均以下群（20～30歳）、平均出産年齢以上の年齢ではじめて親となった平均以上群（31歳以上）を設けた（平均出産年齢については下記 URL を参照）。母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に母親自身の最終学歴を見ると、10代群において「中学校卒業」と答えた割合は 22.2%であり、「高等学校中途退学」と回答した割合は 29.6%であった。

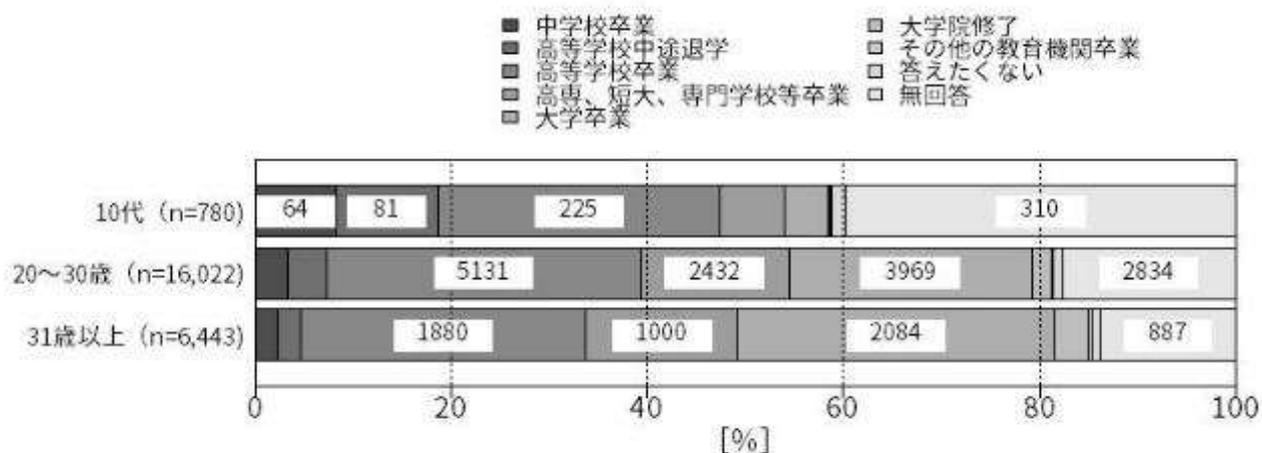
平均出産年齢：

http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/measures/w-2013/25webhonpen/html/b1_s1-1.html

初めて親となった年齢別に見た、父親の最終学歴（保護者票 問 22 × 保護者票 問 8）

※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

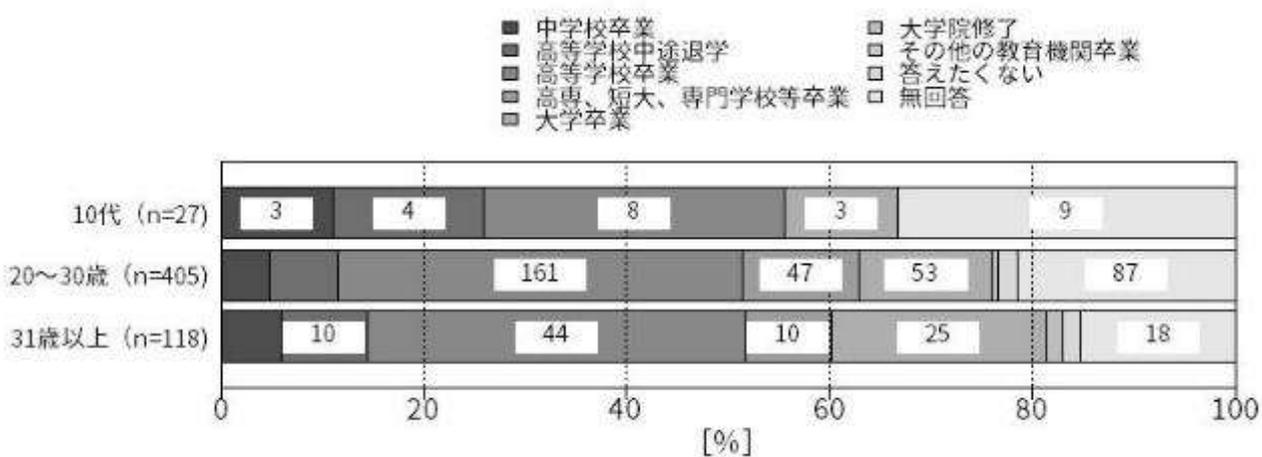


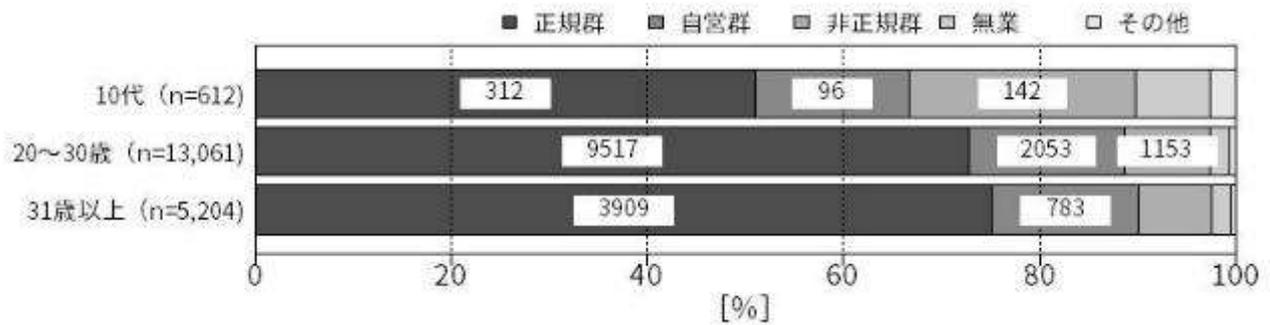
図 165. 初めて親となった年齢別に見た、父親の最終学歴

※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に父親の最終学歴を見ると、10代群において「中学校卒業」と答えた割合は 11.1%であり、「高等学校中途退学」と回答した割合は 14.8%であった。

初めて親となった年齢別に見た、就労状況（保護者票 問 22 × 保護者票 就労状況）
 ※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

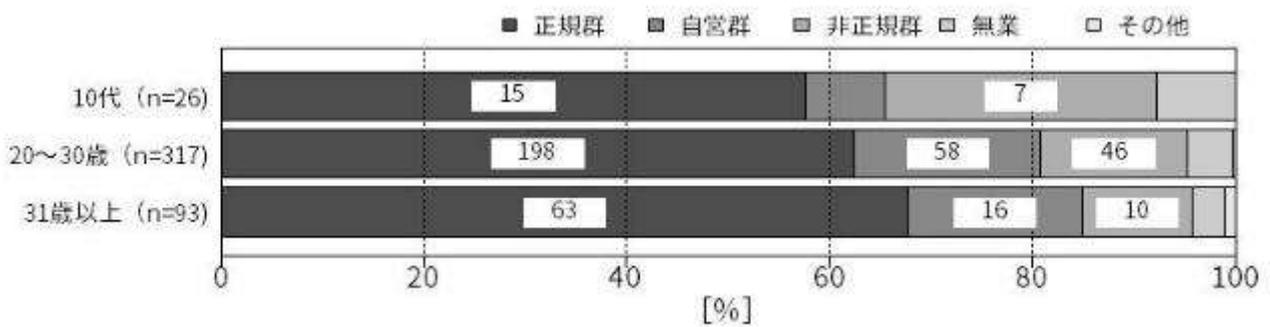
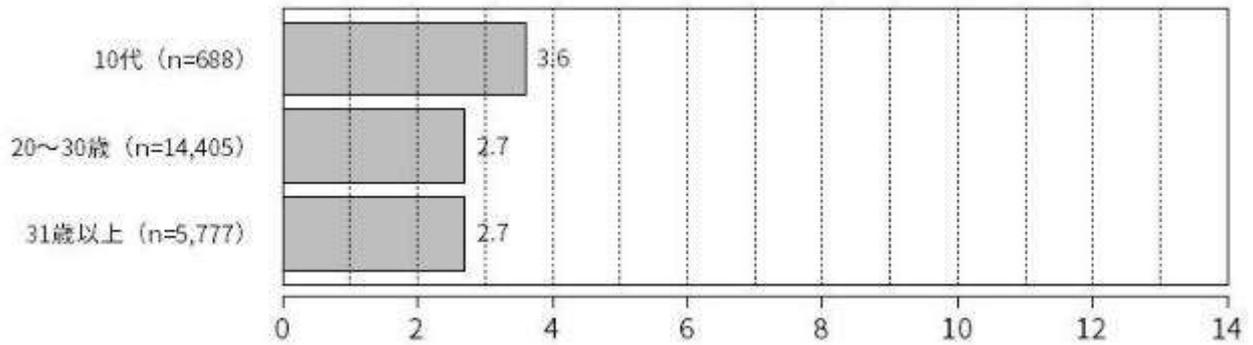


図 166. 初めて親となった年齢別に見た、就労状況
 ※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に就労状況を見ると、10 代群は「正規群」が 57.7%、「非正規群」の割合が 26.9%であった。

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること
(保護者票 問 22 × 保護者票 問 26) ※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

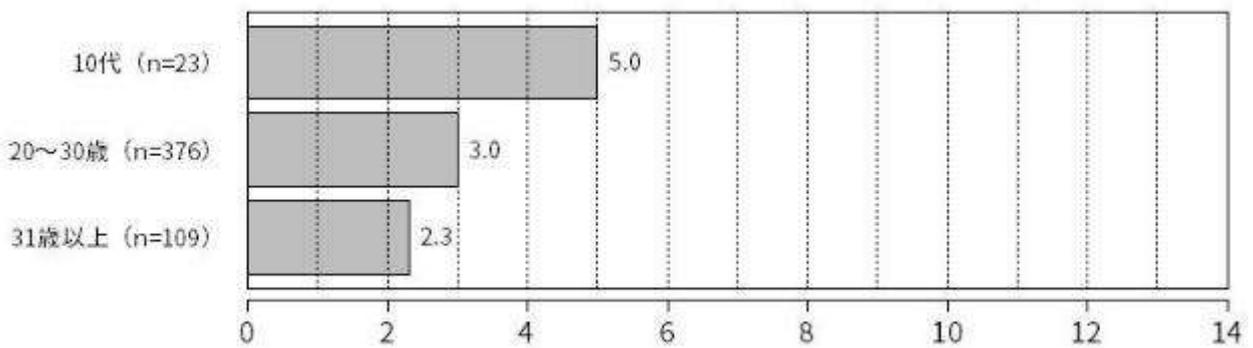
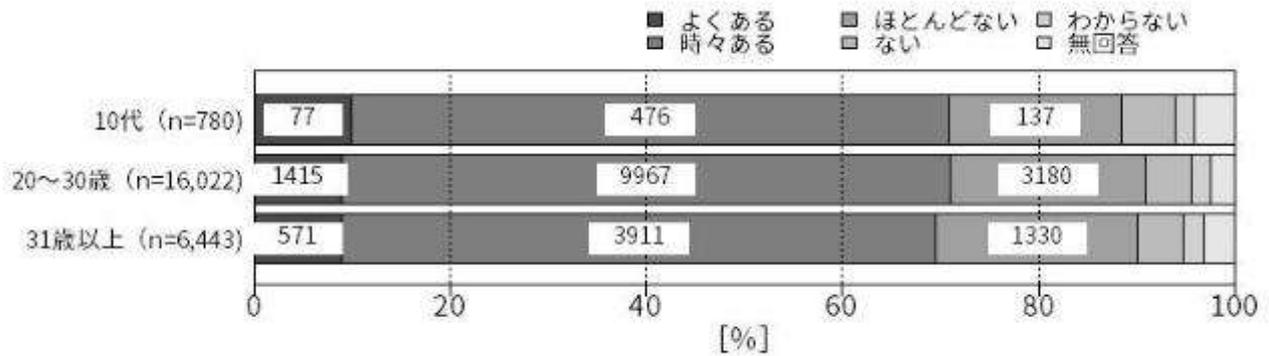


図 167. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること
※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、10代群は5.0個であった。

初めて親となった年齢別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと
 (保護者票 問 22 × 保護者票 問 27) ※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

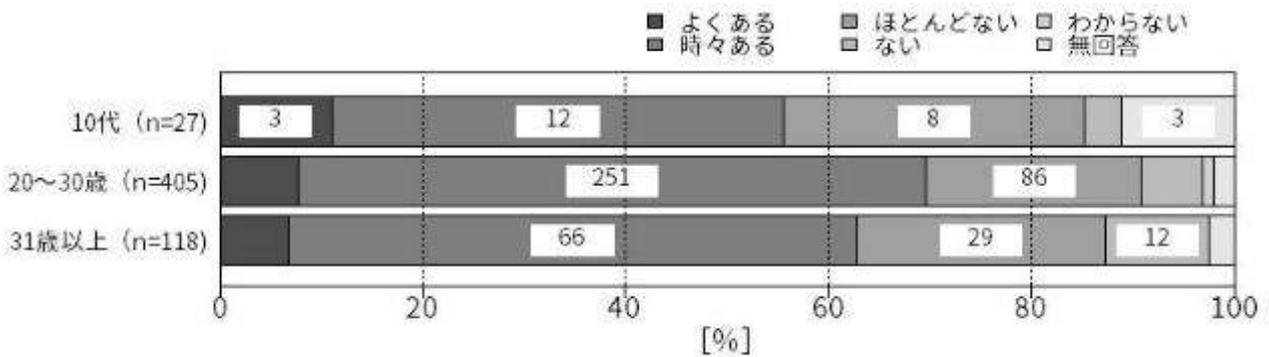
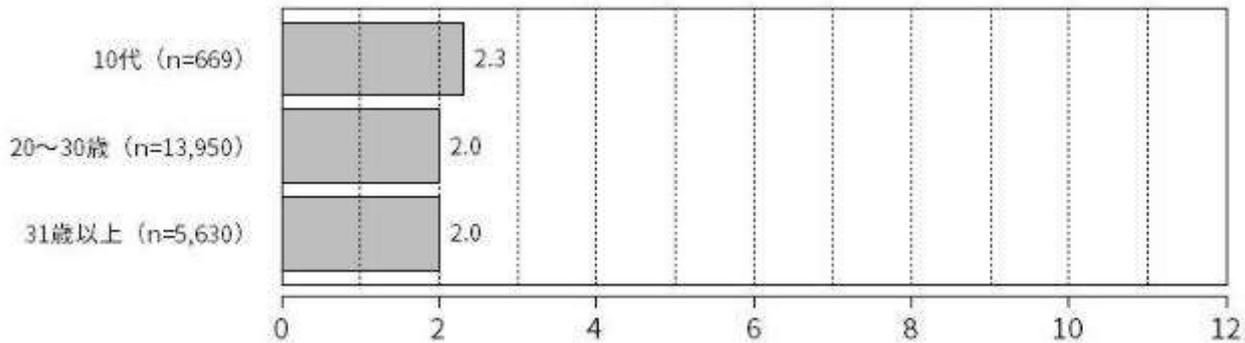


図 168. 初めて親となった年齢別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと
 ※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことを見ると、10代群は、「よくある」と回答した割合は11.1%であった。

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること
(保護者票 問 22 × 子ども票 問 24) ※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

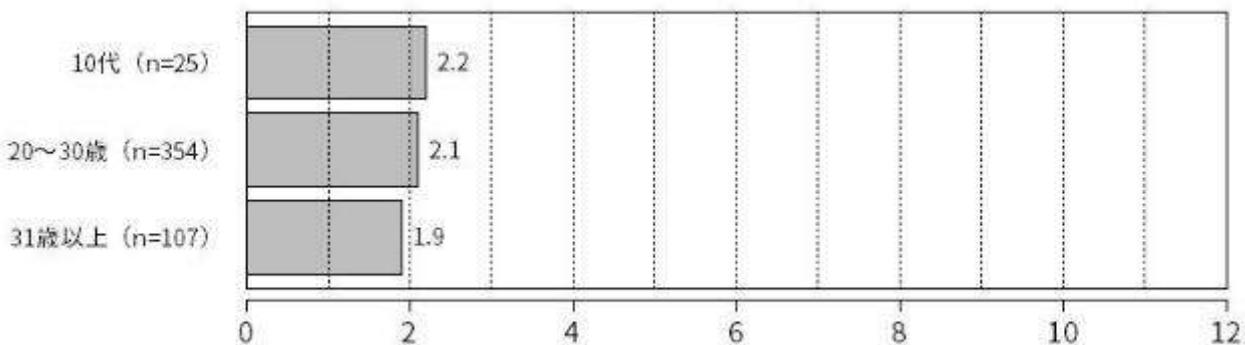
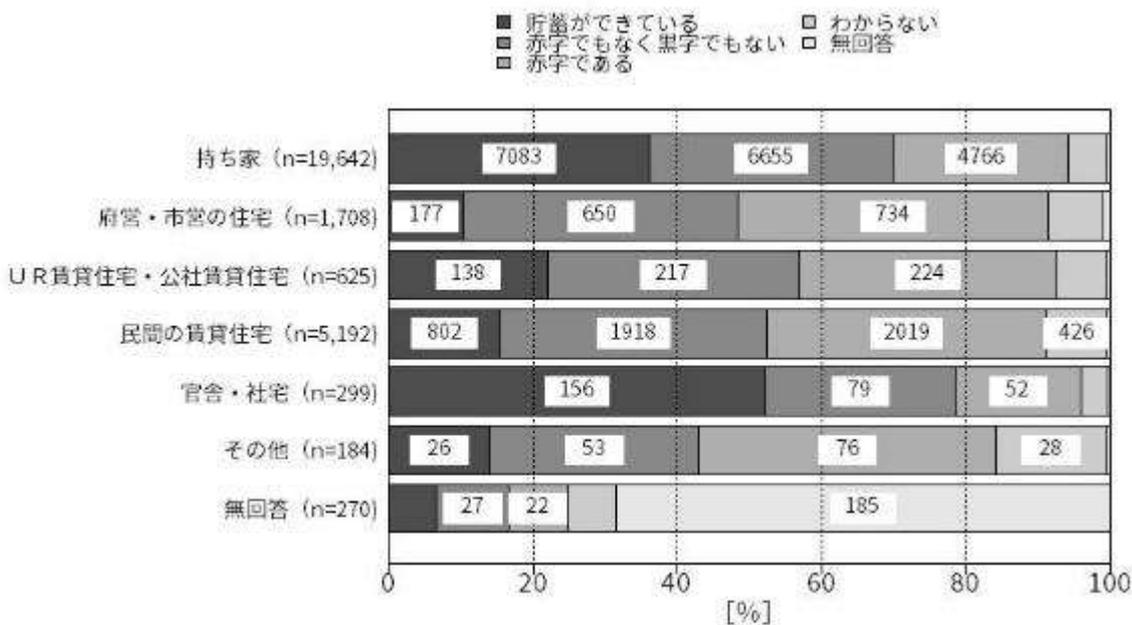


図 169. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること
※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に子どもが自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、10代群では2.2個であった。

住居別に見た、家計状況（保護者票 問4 × 保護者票 問6(1)）

<大阪市24区>



<大阪市西成区>

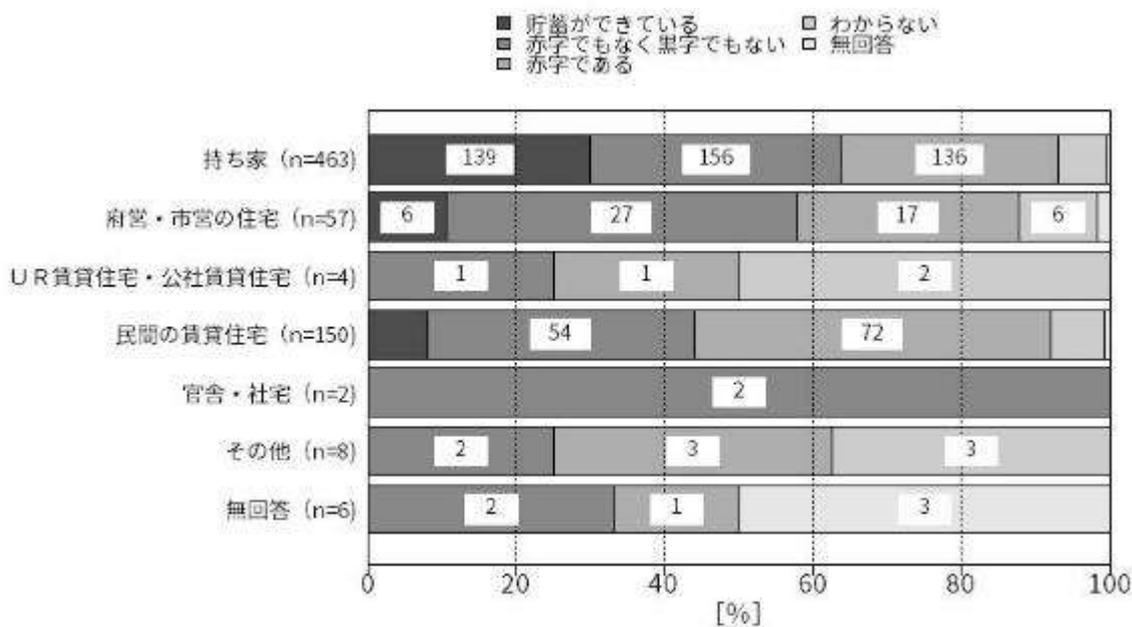
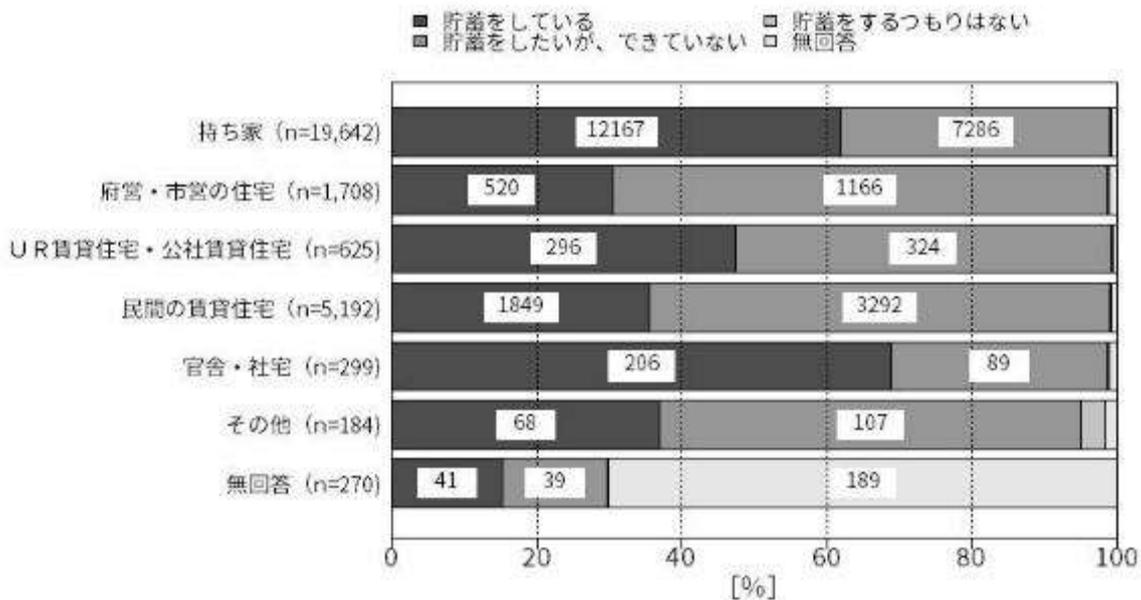


図 170. 住居別に見た、家計状況

「赤字であった」と回答した人の割合を住居別に見ると、府営・市営の住宅に住む人では 29.8%、UR 賃貸住宅・公社賃貸住宅に住む人では 25.0%、民間の賃貸住宅に住む人では 48.0%であった。また、持ち家に住む人で「赤字であった」と回答した割合は 29.4%であった。

住居別に見た、子どものための貯蓄（保護者票 問4 × 保護者票 問6(3)）

<大阪市24区>



<大阪市西成区>

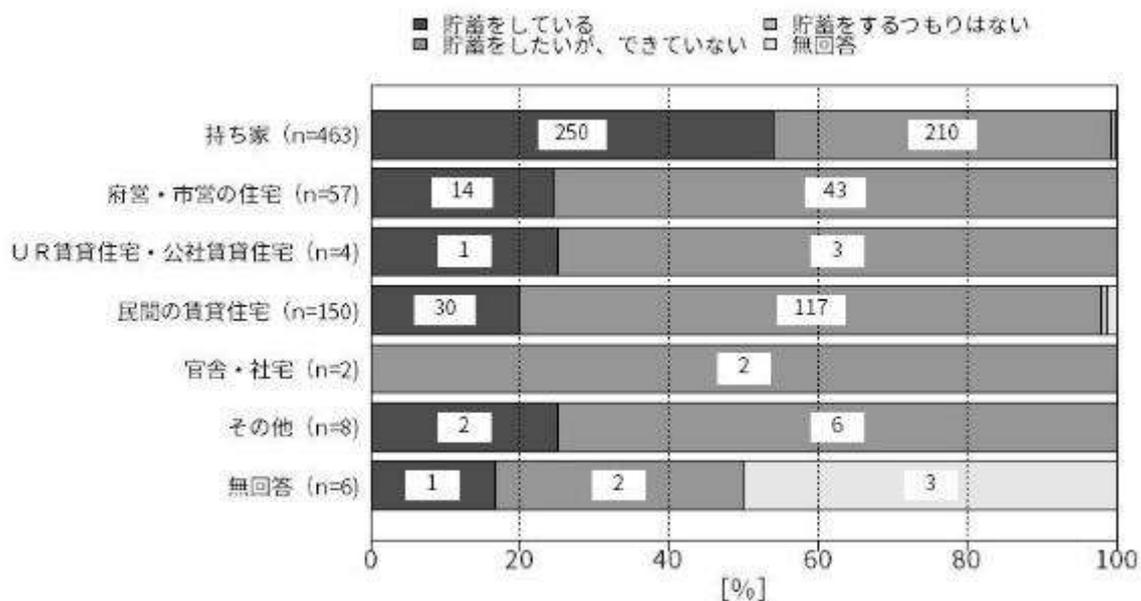


図 171. 住居別に見た、子どものための貯蓄

「貯蓄したいが、できていない」と回答した人の割合を住居別に見ると、府営・市営の住宅に住む人では75.4%、UR賃貸住宅・公社賃貸住宅に住む人では75.0%、民間の賃貸住宅に住む人では78.0%であった。また、持ち家に住む人で「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合は45.4%であった。

<家庭状況に関する考察>

社会保障給付の受給割合について、とりわけ子どもに関連する社会保障給付に着目すると、就学援助制度の受給率は、困窮度Ⅱ群で55.3%（西成区5歳児：12.5%、大阪市全体：52.9%）、困窮度Ⅰ群で58.3%（西成区5歳児：39.1%、大阪市全体：64.4%）と約5割となっている。児童扶養手当（ひとり親世帯が分母）は、困窮度Ⅰ群で63.3%（大阪市全体：76.2%）となっている。生活保護制度については、困窮度Ⅲ群で3.4%（西成区5歳児：2.6%、大阪市全体：2.6%）、Ⅱ群で19.1%（西成区5歳児：6.3%、大阪市全体：9.2%）、Ⅰ群で11.0%（西成区5歳児：10.9%、大阪市全体：9.6%）と、就学援助制度に比べ、低い受給率にとどまっている。就学援助制度は自治体独自の適用基準を有するため単純には判断できないが、生活保護制度も含めて、制度の捕捉率を上げる施策が求められているといえる。

初めて親になった年齢（母親が回答者の場合のみ）を困窮度別にみると、10代の割合は、困窮度Ⅱ群で11.9%（西成区5歳児：0%、大阪市全体：6.3%）、困窮度Ⅰ群で7.2%（西成区5歳児：17.0%、大阪市全体：7.8%）であった。10代、20～23歳をあわせると、困窮度Ⅱ群で28.6%、困窮度Ⅰで40.2%と高い結果となった（5歳児では、困窮度Ⅱ群33.3%、困窮度Ⅰ群43.4%）。母親の学歴を出産時の年齢別にみると、10代では、中卒が22.2%（西成区5歳児：20.7%、大阪市全体：19.0%）、高校中退29.6%（西成区5歳児：27.6%、大阪市全体：31.3%）と他の年齢層に比べて高い割合を示した。就労状況も学歴を反映した結果と推測されるが、10代は、正規群が57.7%（西成区5歳児：40.0%、大阪市全体：51.0%）にとどまり、非正規群が26.9%（西成区5歳児：35.0%、大阪市全体：23.2%）と他の年齢層に比べて就労状況の不安定性が示された。

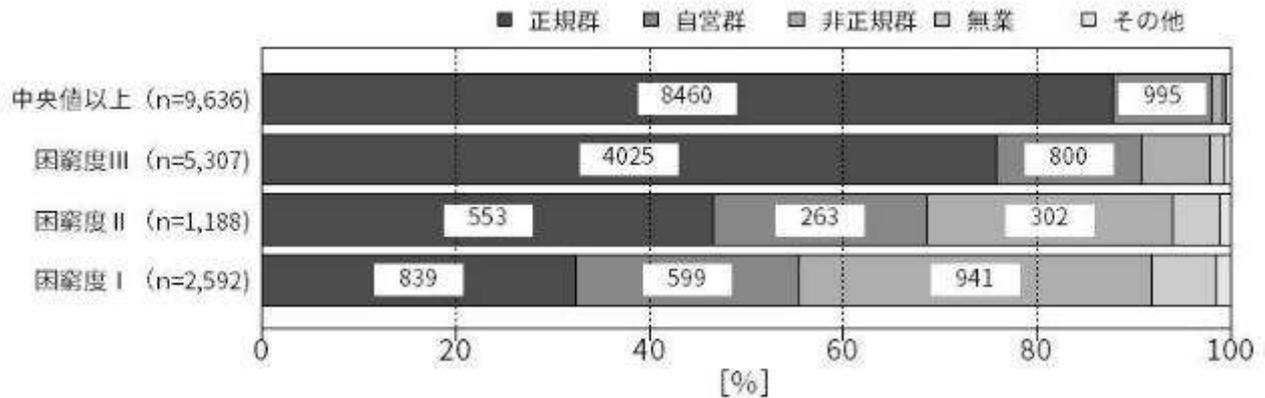
健康状態について、自覚症状の該当する個数の平均は、10代では5.0個（西成区5歳児：4.70個、大阪市全体：3.6個）と、他の年齢層に比べて高い結果となった（20～30歳では平均3.0個（西成区5歳児：3.0個、大阪市全体：2.7個）、31歳以上では2.3個（西成区5歳児：2.7個、大阪市全体：2.7個）。また、保護者（母親が回答した場合のみ）の不安やイライラなどを子どもに向けてしまう割合をみると、出産年齢が低年齢になるほど高くなっている。若年出産者に対する健康支援や子育て支援など、支援ニーズの高さが示されている。

家計の状況を住宅の所有状況別にみると、府営・市営住宅では、29.8%（大阪市全体：43.0%）、UR賃貸住宅では、25.0%（大阪市全体：35.8%）、民間の賃貸住宅では48.0%（大阪市全体：38.9）と家計の厳しさが示された。同様に、子どものための貯蓄の状況では、「貯蓄をしたいが、できていない」という回答が府営・市営住宅では75.4%（大阪市全体：68.3%）、UR賃貸住宅では75.0%（大阪市全体：51.8%）、民間の賃貸住宅では78.0%（大阪市全体：63.4%）となり、他の住宅に比べ高い結果となった。また、持ち家に住む人で「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合は45.4%であった。

3-2. 雇用

困窮度別に見た、就労状況（保護者票 就労状況）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

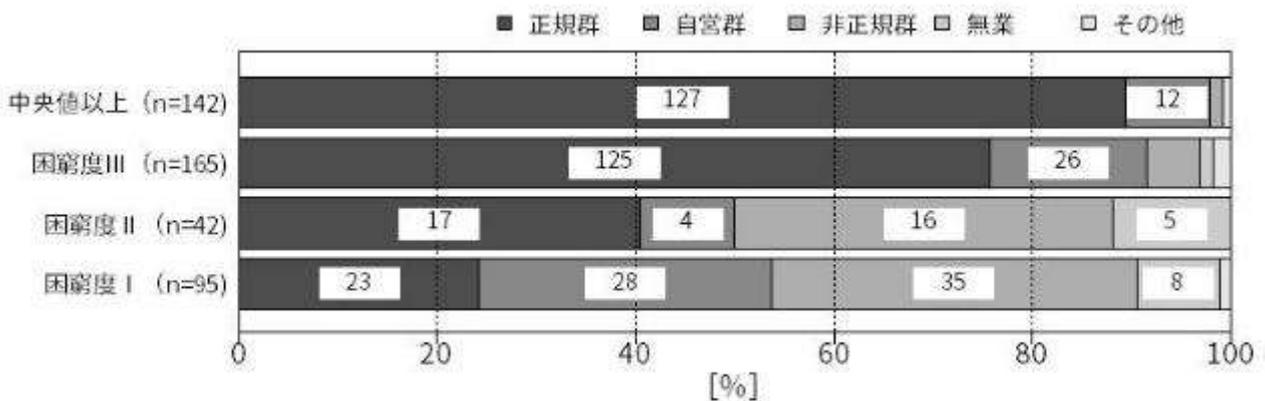


図 172. 困窮度別に見た、就労状況

困窮度別に就労状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「正規群」の割合が低くなり、「自営群」・「非正規群」の割合が高くなる傾向にある。困窮度Ⅰ群では「正規群」の割合が24.2%、「非正規群」の割合が36.8%となっていた。

※就労形態は以下のように分類している。

父母あるいは主たる生計者に正規が含まれば「正規群」（問9選択肢1）、

上記以外で、父母あるいは主たる生計者に自営が含まれば「自営群」（問9選択肢4）、

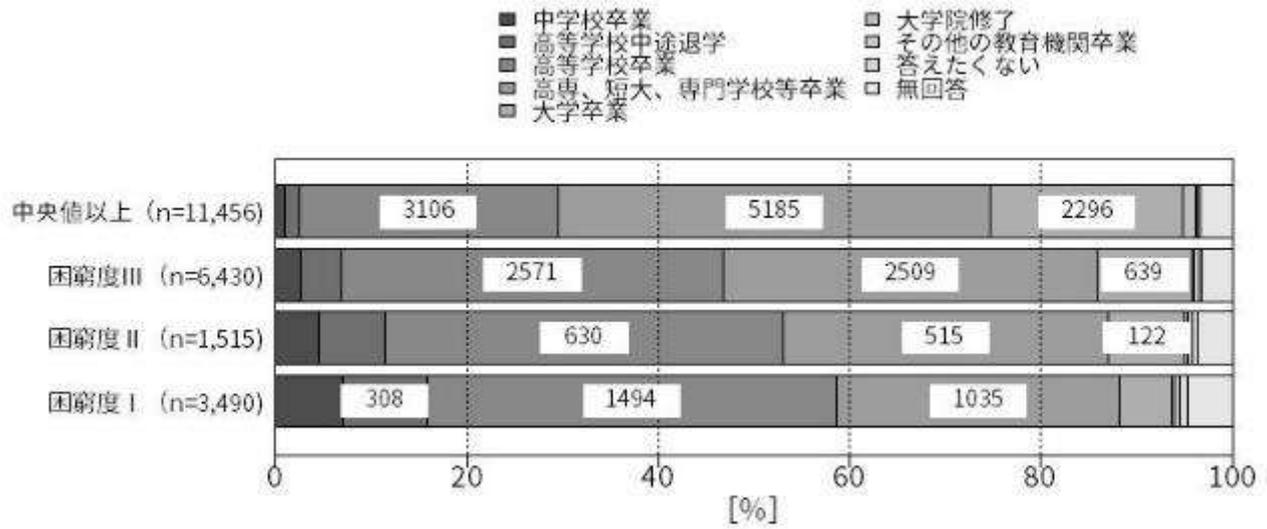
上記以外で、父母あるいは主たる生計者に非正規が含まれば「非正規群」（問9選択肢2、3）、

上記以外で、誰も働いていなければ（問9選択肢6、7）無業。

上記以外がその他 となる。

困窮度別に見た、母親の最終学歴（保護者票 問8）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

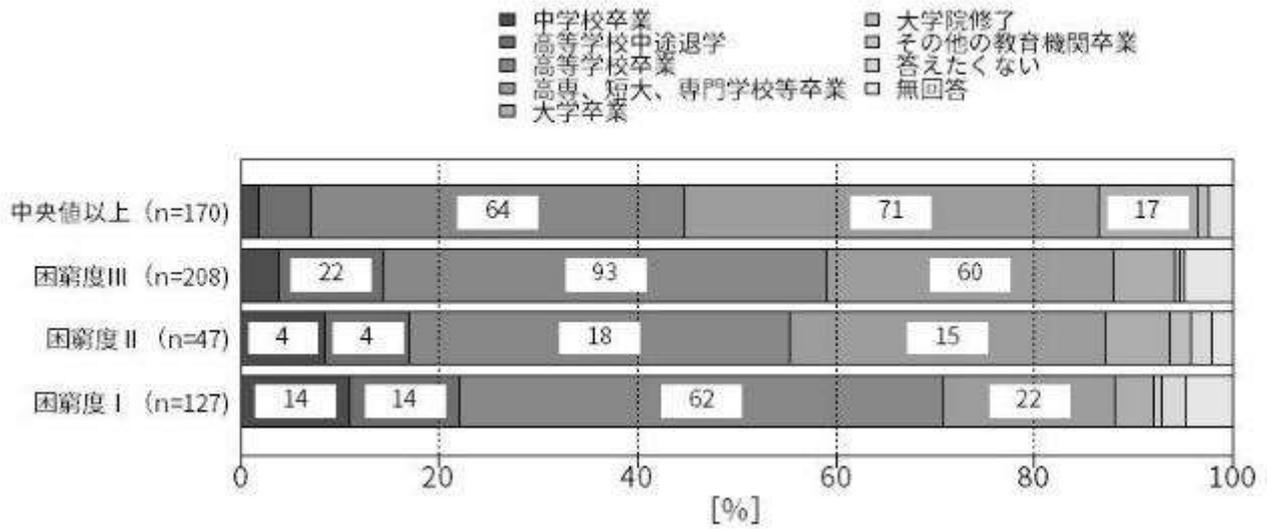
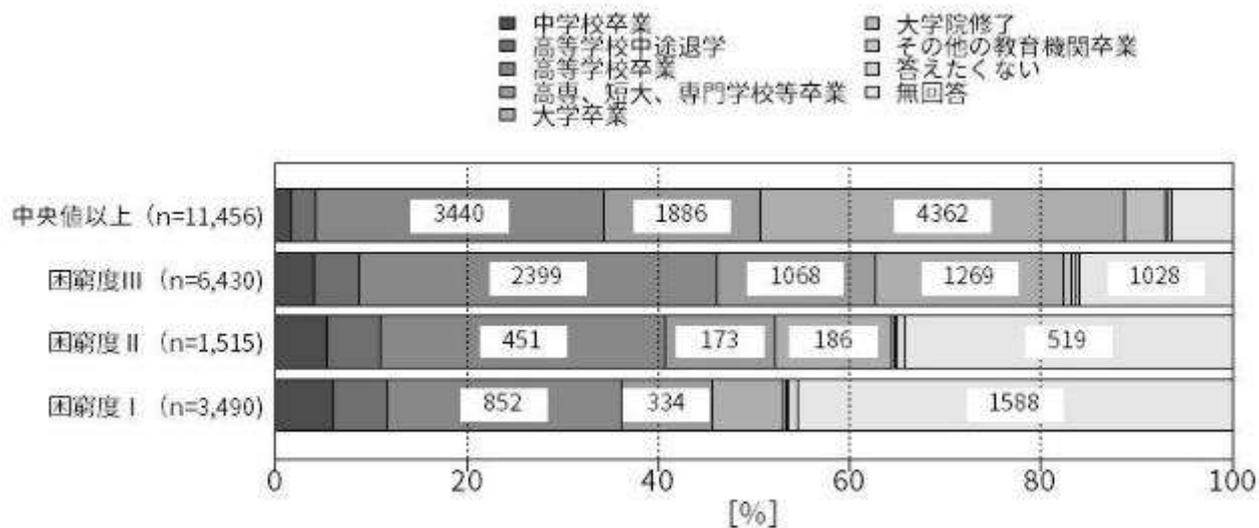


図 173. 困窮度別に見た、母親の最終学歴

困窮度別に母親の最終学歴を見ると、困窮度Ⅰ群の「中学校卒業」は11.0%、「高等学校中途退学」は11.0%、「高等学校卒業」の割合が48.8%であった。

困窮度別に見た、父親の最終学歴（保護者票 問8）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

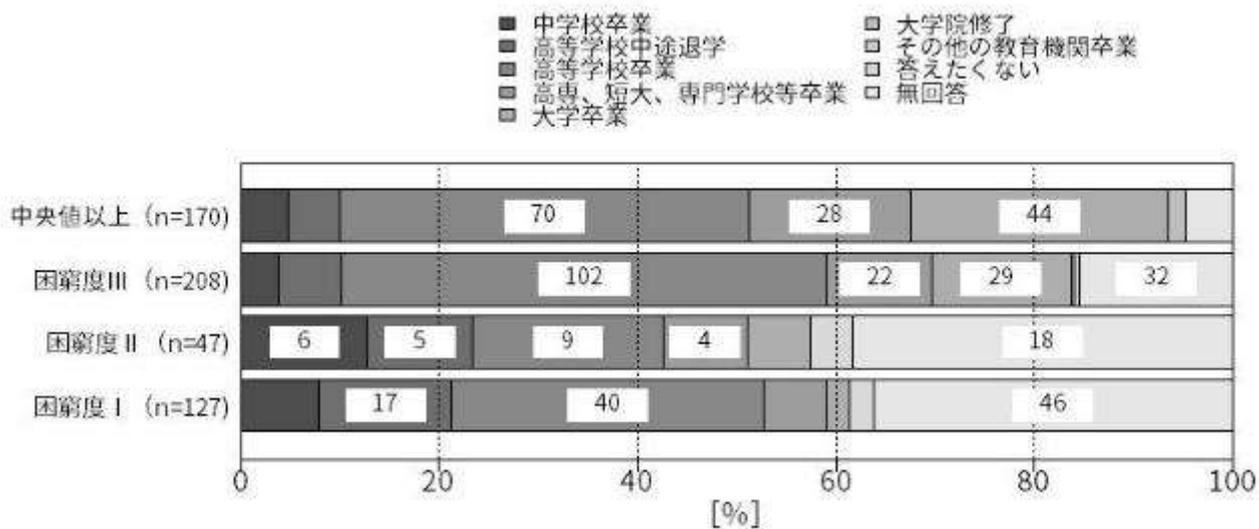
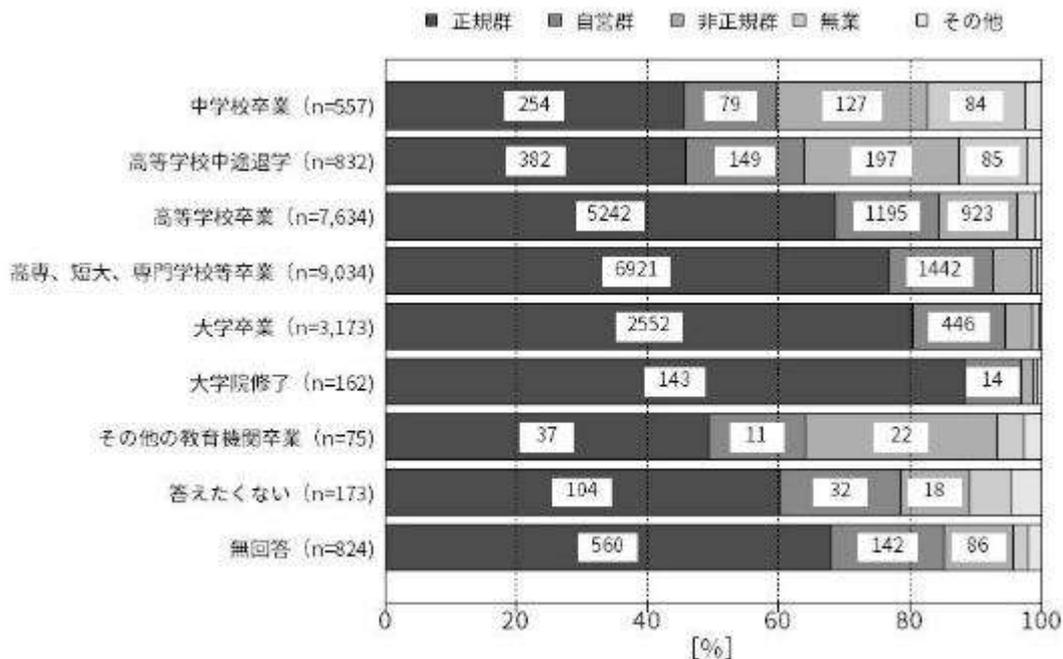


図 174. 困窮度別に見た、父親の最終学歴

困窮度別に父親の最終学歴を見ると、困窮度 I 群において、「中学校卒業」と「高等学校中途退学」の割合はそれぞれ 7.9%、13.4%であった。また、困窮度 I 群では無回答の割合も高い (36.2%)。

母親の最終学歴別に見た、就労状況（保護者票 問8 × 保護者票 就労状況）

<大阪市 24区>



<大阪市西成区>

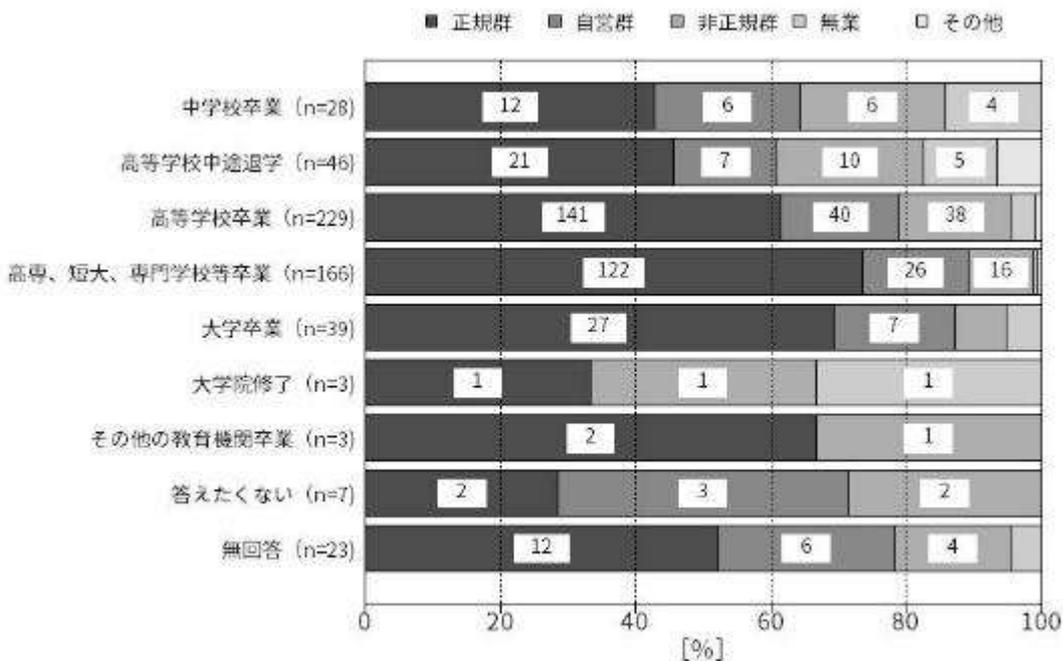
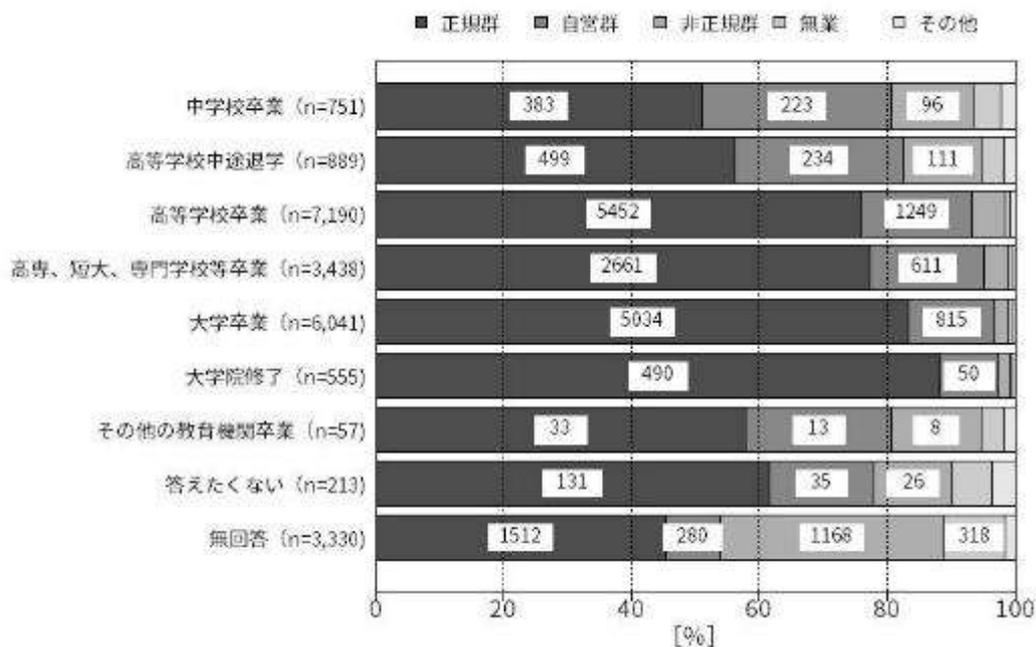


図 175. 母親の最終学歴別に見た、就労状況

母親の最終学歴別に就労状況を見ると、概ね、「母親の最終学歴」が高くなるにつれて「正規群」の割合が高くなる。

父親の最終学歴別に見た、就労状況（保護者票 問8 × 保護者票 就労状況）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

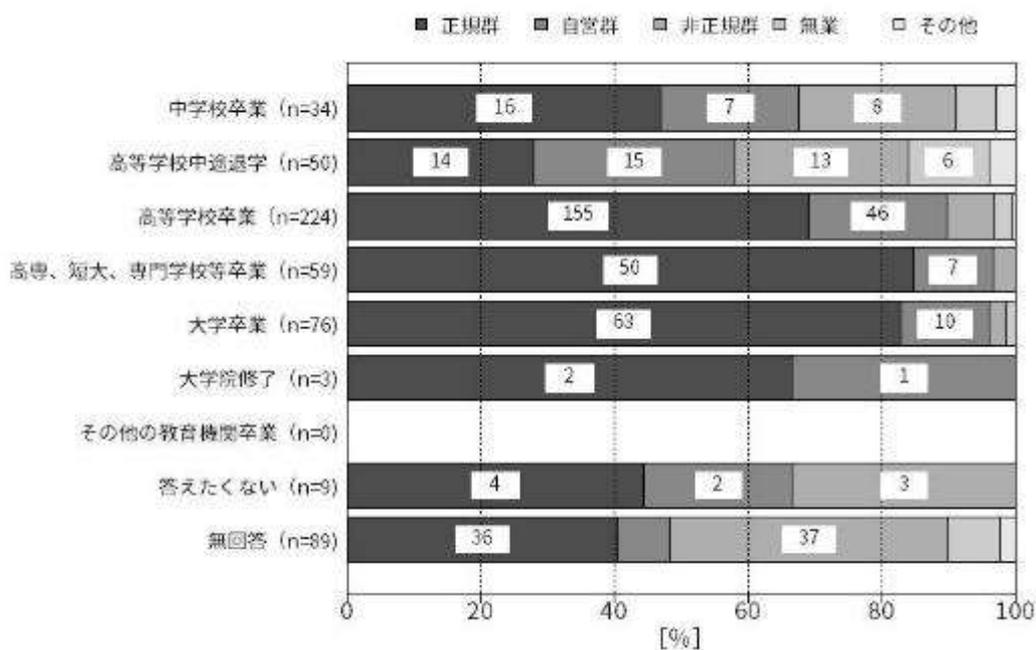
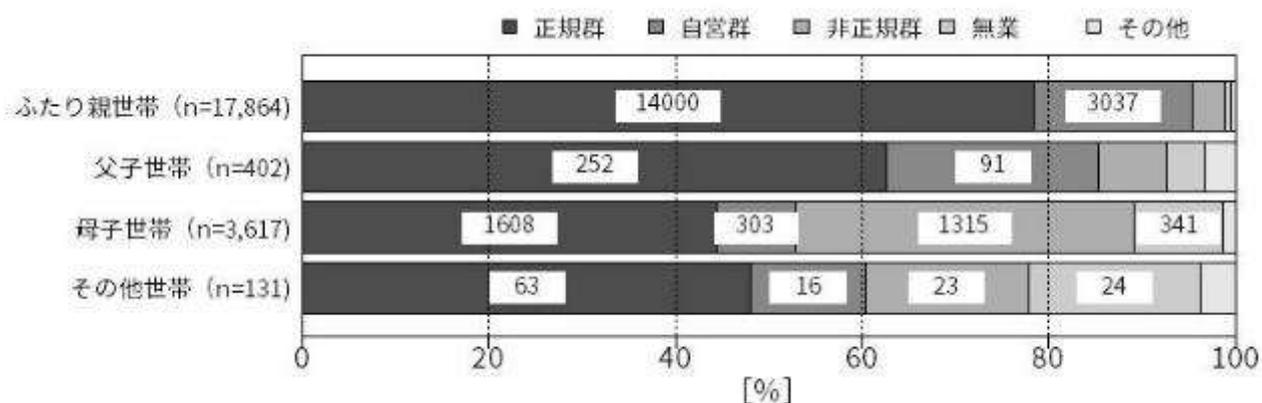


図 176. 父親の最終学歴別に見た、就労状況

父親の最終学歴別に就労状況を見ると、概ね、「父親の最終学歴」が高くなるにつれて「正規群」の割合が高くなる。

世帯構成別に見た、就労状況（保護者票 就労状況）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

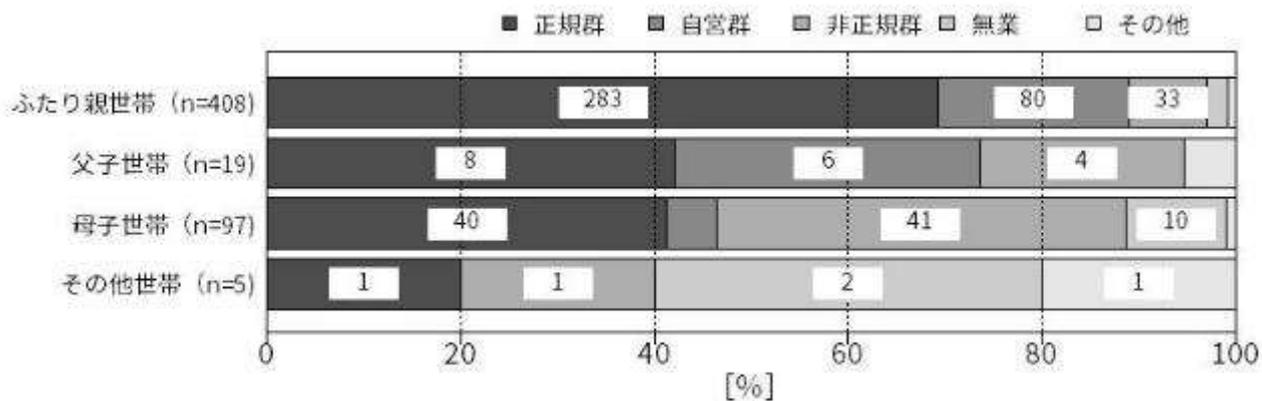
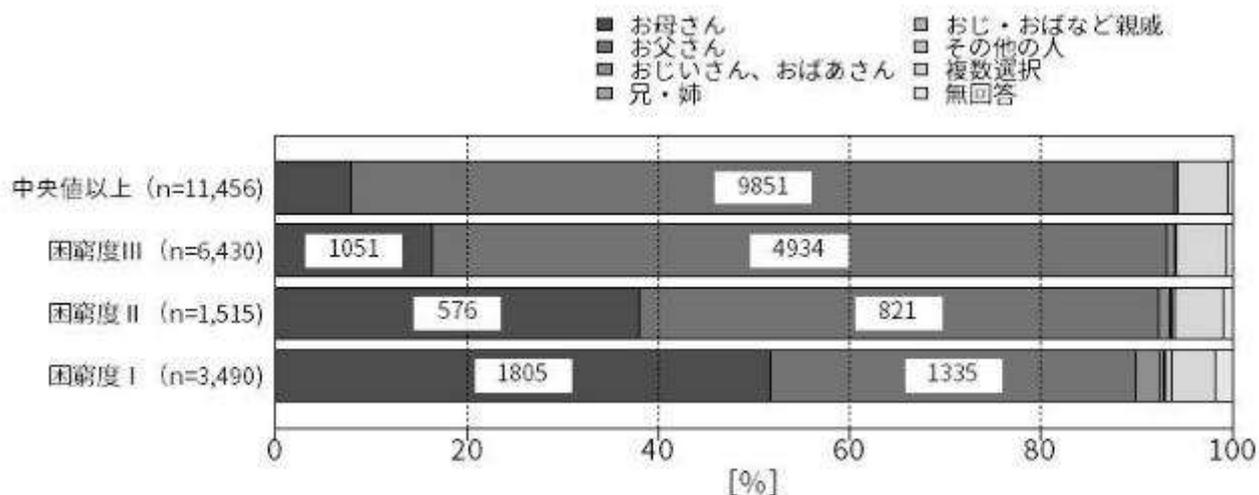


図 177. 世帯構成別に見た、就労状況

世帯構成別に就労状況を見ると、「ふたり親世帯」では「正規群」の割合が 69.4%であったが、「父子世帯」では 42.1%、「母子世帯」では 41.2%である。「非正規群」は、「父子世帯」では 21.1%、「母子世帯」では 42.3%となっている。

困窮度別に見た、生計の支えとなる人（保護者票 問 30(2)）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

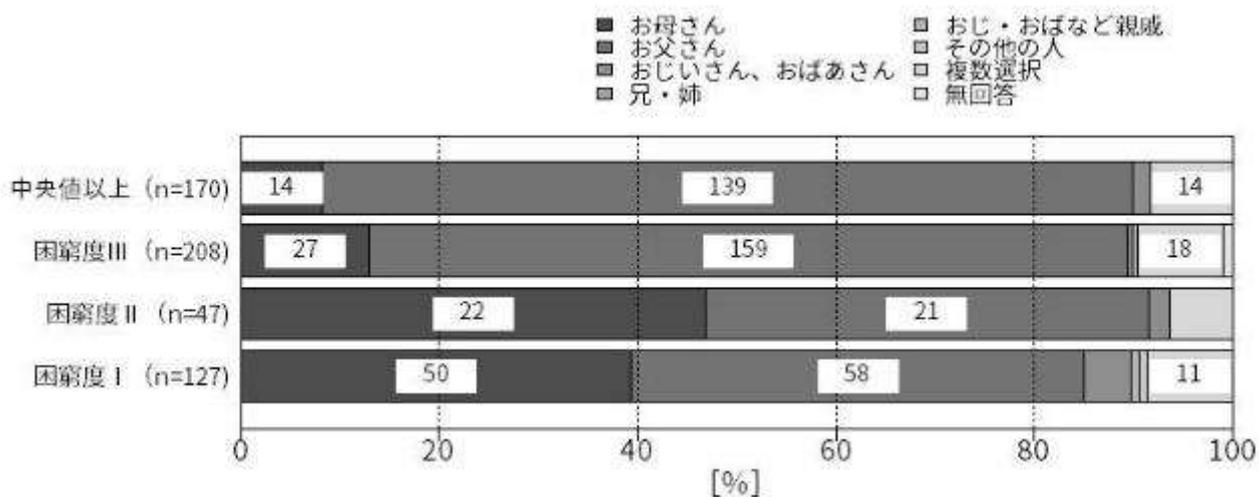
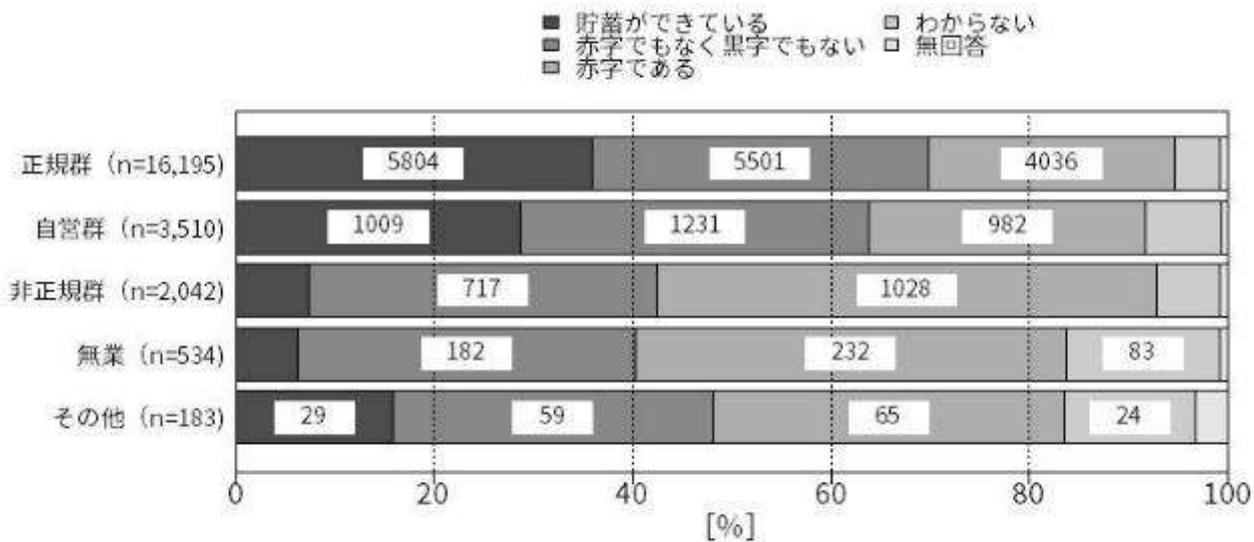


図 178. 困窮度別に見た、生計の支えとなる人

困窮度別に生計の支えとなる人を見ると、中央値以上群では「お父さん」という回答が 81.8%であった。困窮度が高まるにつれ、「お母さん」という回答が多くなる。困窮度Ⅱ群では「お母さん」という回答は 46.8%、困窮度Ⅰ群では 39.4%であった。

就労状況別に見た、家計状況（保護者票 問6(1)）

<大阪市24区>



<大阪市西成区>

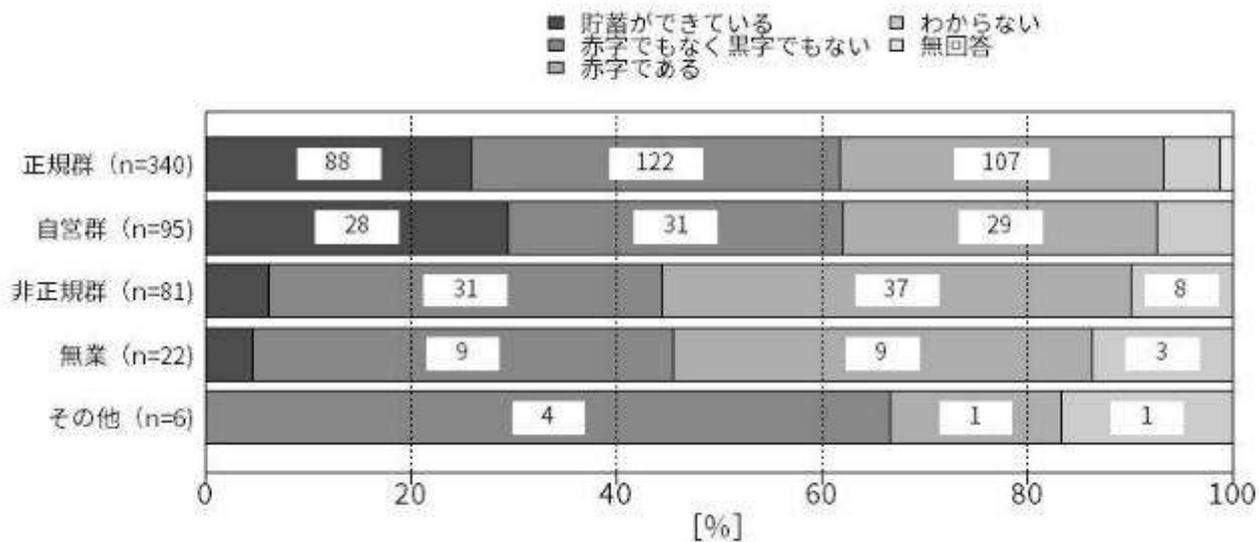


図 179. 就労状況別に見た、家計状況

就労状況別に家計状況を見ると、「正規群」・「自営群」では「貯蓄ができている」割合がそれぞれ、25.9%、29.5%であった。「非正規群」では「赤字である」と回答した人が45.7%である。「赤字でもなく黒字でもない」群に大きな差は見られない。

<雇用に関する考察>

本調査では、雇用形態が所得階層の分布に反映されていることが判明した。所得階層が高い層ほど、正規雇用である傾向がみられたためである。中央値以上の群では、正規雇用が約90%なのに対して、困窮度Ⅰの群では半分以下の24.2%にとどまっている。非正規雇用の割合は中央値以上の群では1.4%であったにもかかわらず、困窮度Ⅰの群では36.8%に達する。ちなみに、正規雇用であるにもかかわらず困窮度Ⅰの群に属するという点は、ワーキングプアなどの問題を含んでいる可能性がある。

困窮度が高い群ほど、学歴が低い傾向にあることも示された。中学卒業、あるいは高校中退である割合は、困窮度Ⅰの群に属する母親の場合ともに11.0%であった。中央値以上の群ではそれぞれ1.8%と5.3%であった。父親も同様の傾向が見られた。中学卒業、あるいは高校中退である割合は、困窮度Ⅰの群では7.9%と13.4%であったのに対して、中央値以上の群では4.7%と5.3%であった。さらに、学歴が高い群ほど正規雇用の割合は高く、大学卒では正規雇用の割合は70%近かった。

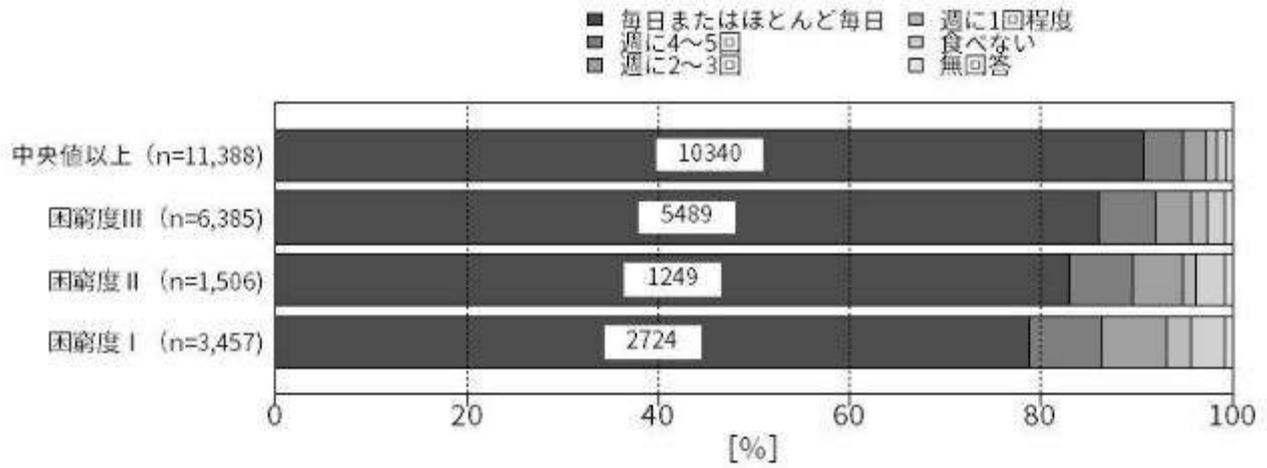
世帯構成と就労状況の関係を見ると、母子世帯における非正規雇用の高さが目立つこととなった。ふたり親世帯では8.1%であったのに対して、母子世帯では42.3%の世帯が非正規雇用であった。

家計の状況にも明確な差が生じていた。正規雇用の25.9%は、貯蓄ができていると回答し、生活が安定している傾向が見られたのに対し、非正規雇用では貯蓄ができている世帯は6.2%にとどまり45.7%が赤字であると回答している。

3-3. 健康

困窮度別に見た、朝食の頻度（子ども票 問5(1)）

<大阪市24区>



<大阪市西成区>

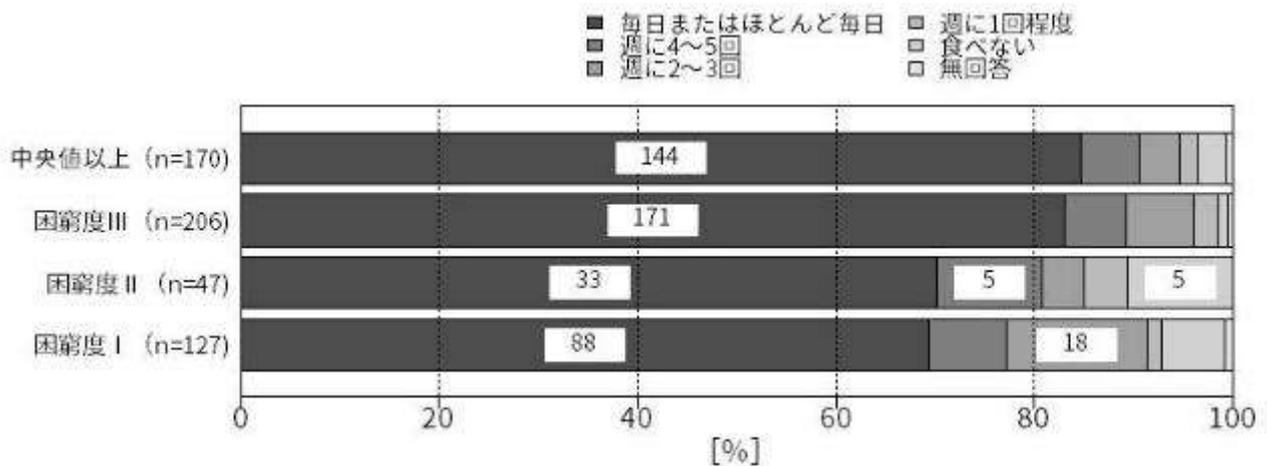
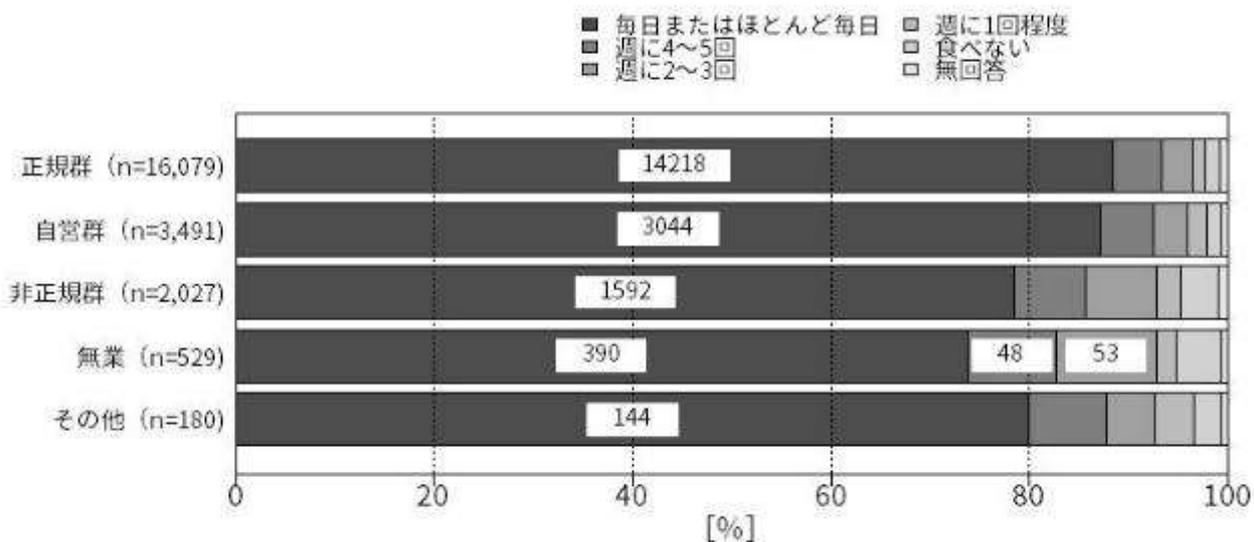


図 180. 困窮度別に見た、朝食の頻度

困窮度別に朝食の頻度を見ると、困窮度が高くなるにしたがって、「毎日またはほとんど毎日」朝食を食べる頻度が減る傾向が見られた。困窮度Ⅰ群では、6.3%が「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていないと回答した。

就労状況別に見た、朝食の頻度（子ども票 問5(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

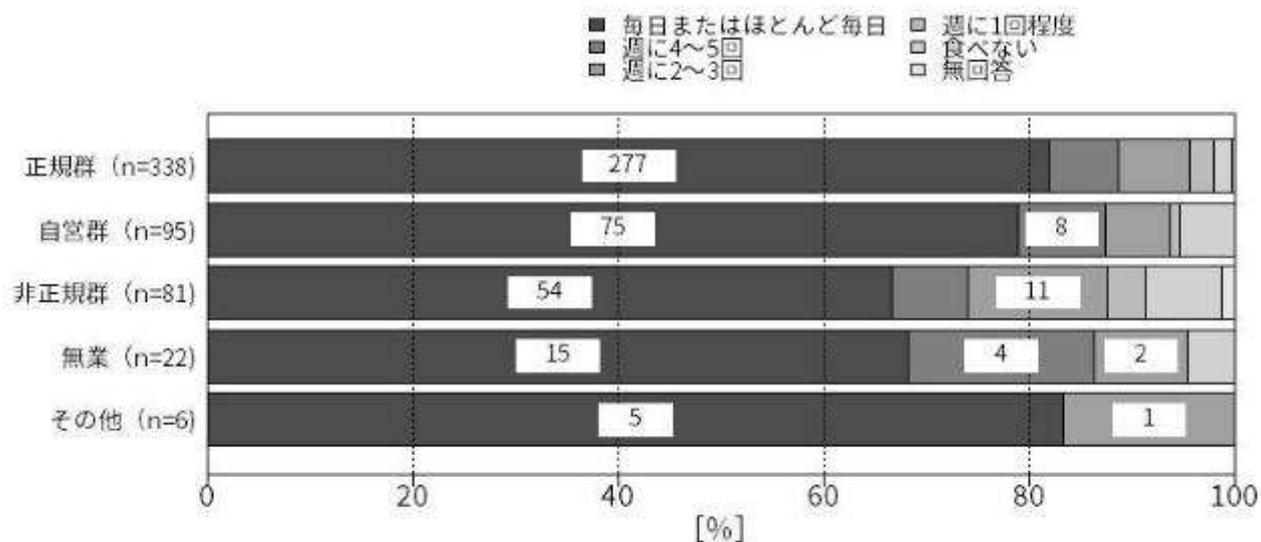
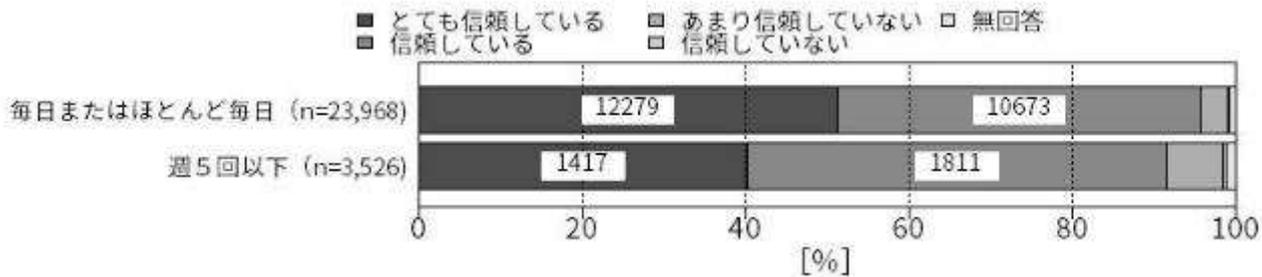


図 181. 就労状況別に見た、朝食の頻度

就労状況別に朝食の頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる割合は、「正規群」で 82.0%、「自営群」で 78.9%、「非正規群」で 66.7%、「無業」で 68.2%であった。

朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）
 （子ども票 問5(1) × 保護者票 問14(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

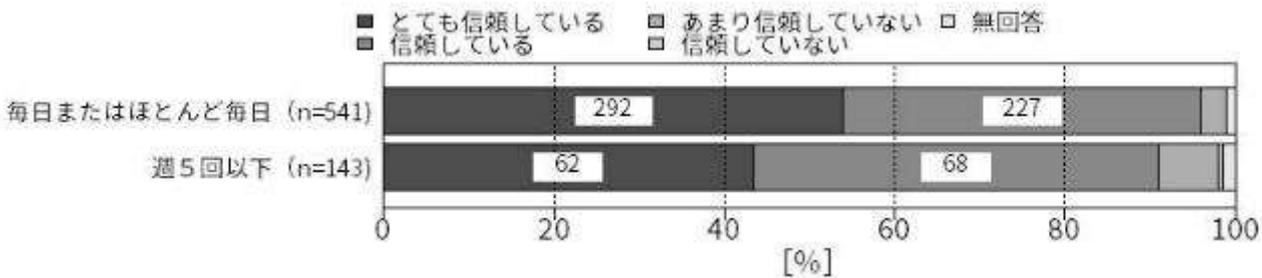
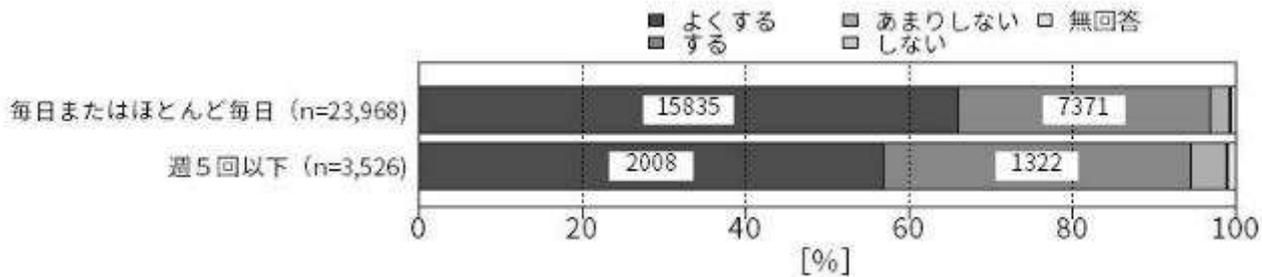


図 182. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、子どもを「とても信頼している」との回答が 54.0%であったのに対し、「週5回以下」では、「とても信頼している」と回答した人は 43.4%である。

朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）
 （子ども票 問 5(1) × 保護者票 問 14(2)）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

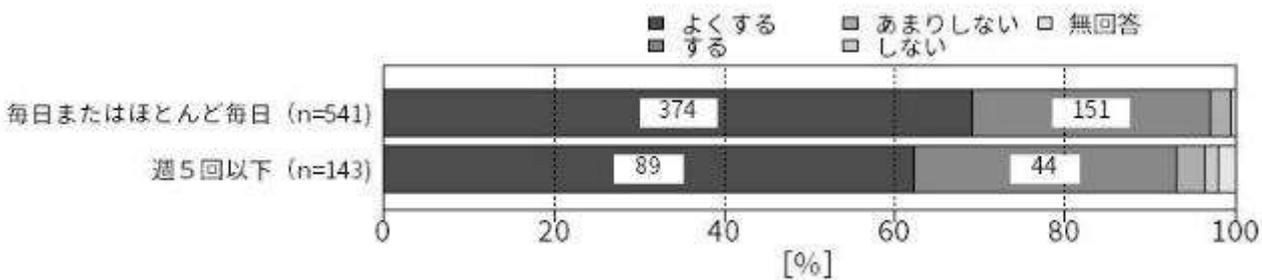
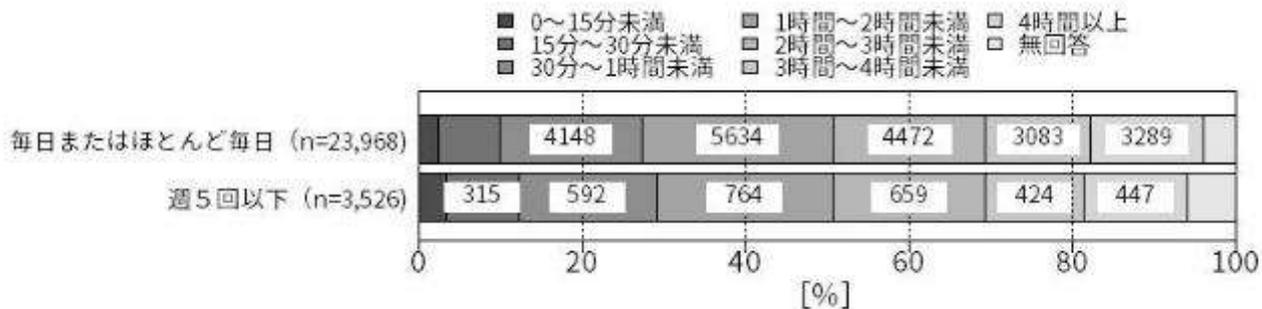


図 183. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもと会話）を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、子どもと「よく会話をする」との回答が 69.1%であり、「週5回以下」では、「よく会話をする」と回答した人は 62.2%である。

朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））
 （子ども票 問5(1) × 保護者票 問14(3)）

<大阪市24区>



<大阪市西成区>

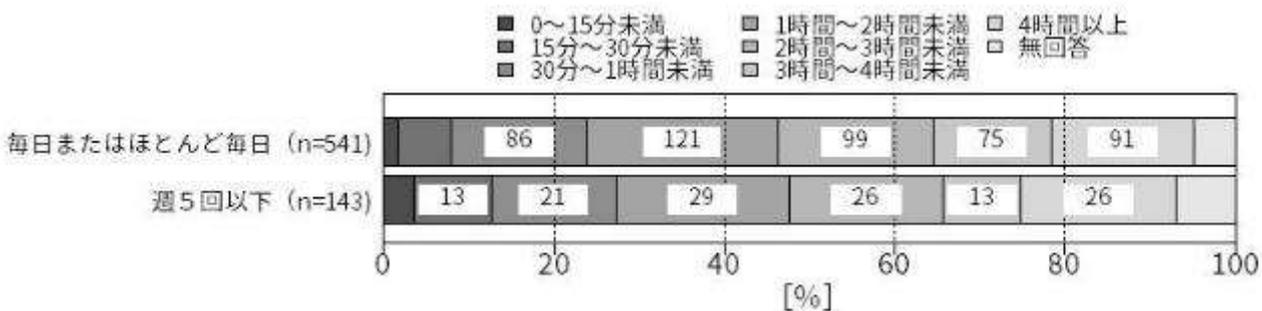
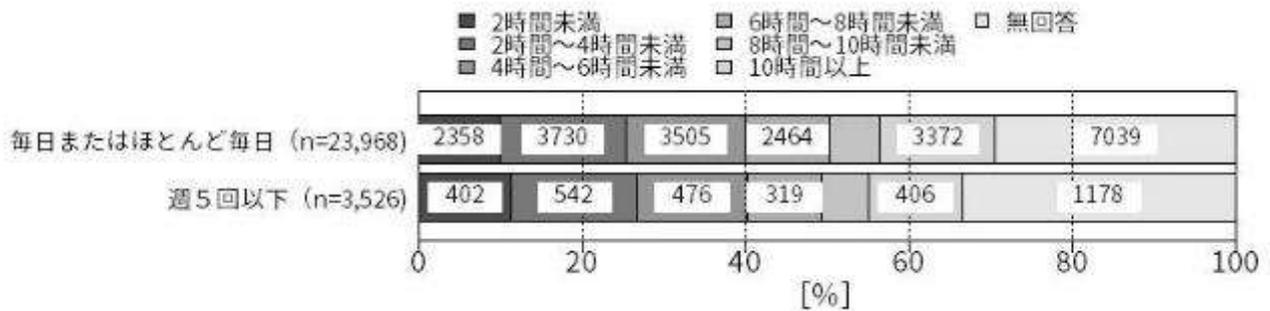


図 184. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり
 （子どもと一緒にいる時間（平日））

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人のほうが「週5回以下」の人よりも平日に子どもと一緒にいる時間が長くなっている傾向にある。

朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））
 （子ども票 問5(1) × 保護者票 問14(3)）

<大阪市24区>



<大阪市西成区>

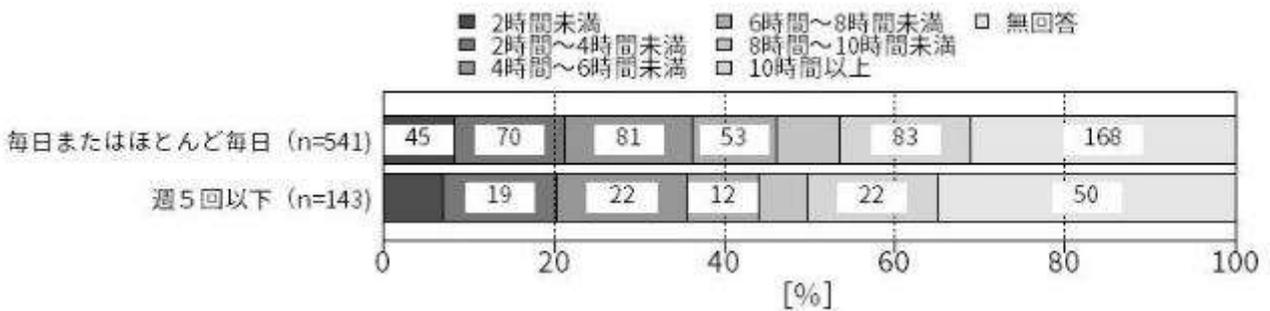
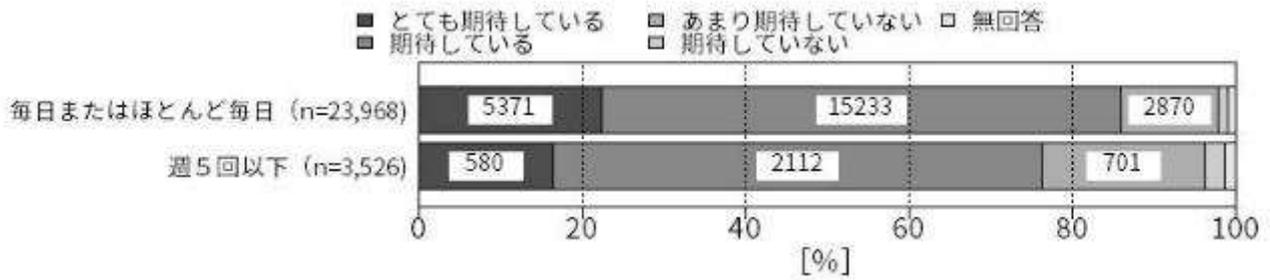


図 185. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり
 （子どもと一緒にいる時間（休日））

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人のほうが、「週5回以下」の人よりも休日に子どもと一緒にいる時間が長くなっている傾向にある。

朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）
 （子ども票 問5(1) × 保護者票 問14(4)）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

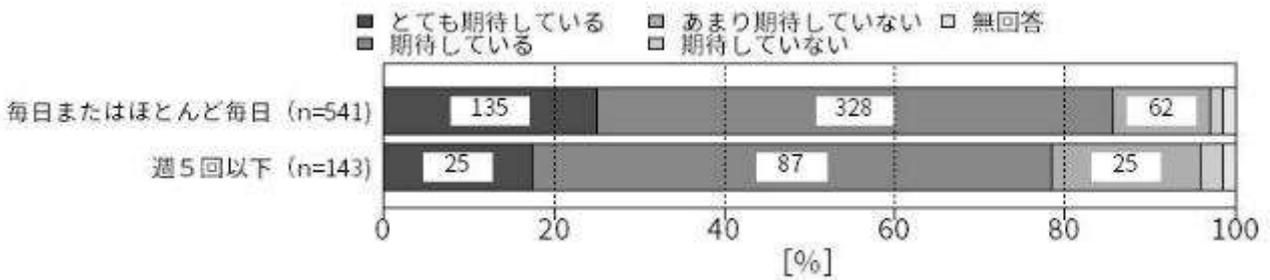


図 186. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）

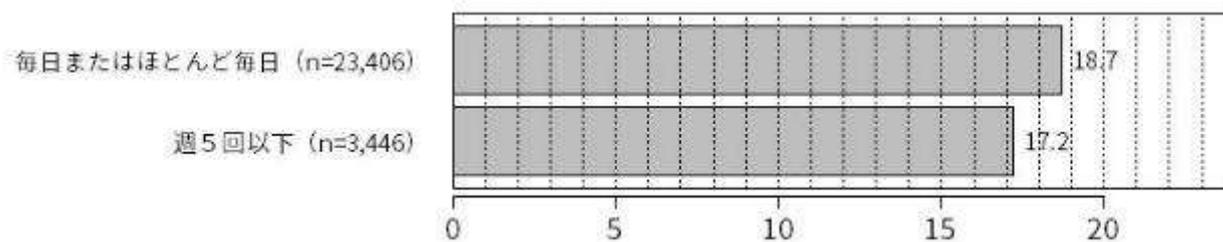
朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人では、「とても期待している」「期待している」をあわせて、85.6%であったのに対して、「週5回以下」の人では、「とても期待している」「期待している」と回答した人をあわせて78.3%である。

朝食の頻度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

(子ども票 問 5(1) × 子ども票 問 26(1)～(6))

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

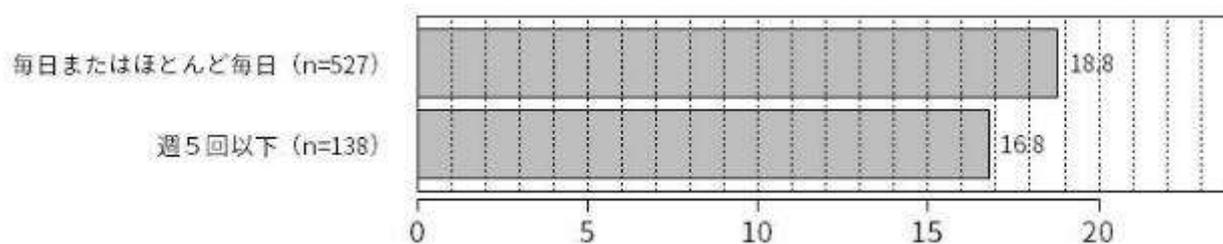
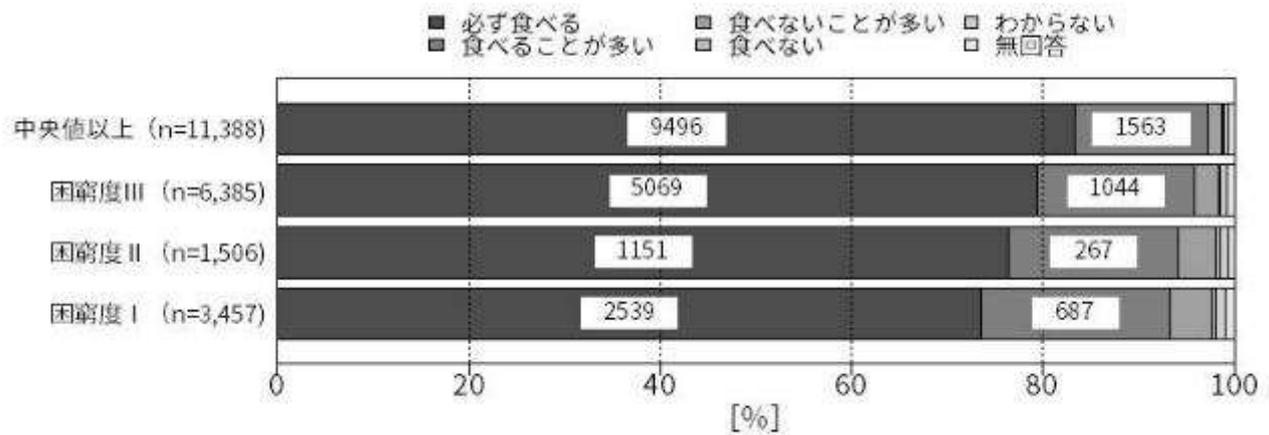


図 187. 朝食の頻度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

朝食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、18.8点であったのに対して、「週5回以下」では、16.8点である。

困窮度別に見た、昼食の頻度（子ども票 問7）

<大阪市 24 区>



<大阪市西成区>

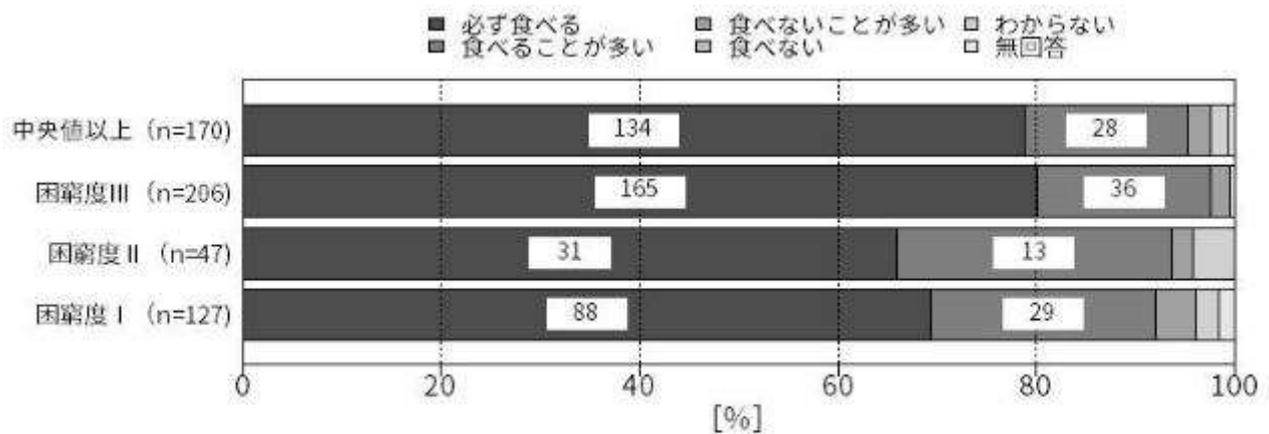
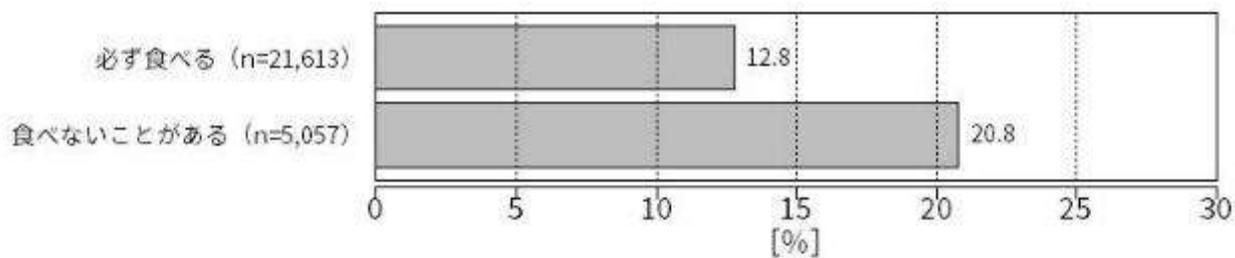


図 188. 困窮度別に見た、昼食の頻度

中央値以上群では、昼食を「必ず食べる」が 78.8%であったのに対し、困窮度Ⅱ群では 66.0%、困窮度Ⅰ群では 69.3%であった。

昼食の頻度別に見た、相談相手のいない割合（子ども票 問7 × 子ども票 問22）

<大阪市24区>



<大阪市西成区>

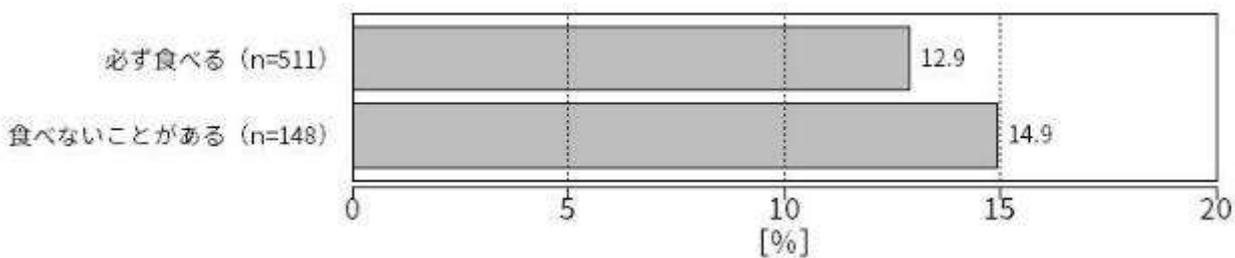


図 189. 昼食の頻度別に見た、相談相手のいない割合

昼食を食べない群では、「相談しない」と答えた割合が 14.9%である。